

# かりん

Kyoto University Jinkan-Soujin Library Bulletin



No.2

2009

声 .....	02
学術情報リポジトリ .....	04
勉強法・研究法を伝授 .....	06
自著を語る .....	11
所蔵資料紹介 .....	14
環on映画会 .....	17
寄贈図書 .....	19
情報収集のコツ .....	23
図書館の活動 .....	27



## 投我以木李、報之以瓊玖

(『詩経』衛風)

あなたが花梨の実を投げしてくれたから、私は美しい玉で応えよう。

※木李：花梨(カリン)

科名：バラ科. 中国名：榎櫨. 和名：花梨/花欄/クワリン. 学名：Chaenomeles sinensis

英語：a Chinese quince. 中国原産の落葉性高木.

当館の西南に植わっているカリンの実は10-11月頃黄色く色づく。

この詩は、長いよしみをなす意とも、女性の求愛に男性が応える意とも言われる。

表紙写真：『はちかつき』奈良絵本(江戸前期)

京都大学人環・環境学研究科総合人間学部図書館蔵 <413III47>

## 目次

### 巻頭言

ネビュラス . . . . . 堀 智孝 01

### 声

机と棚 . . . . . 岡本 源太 02

ささやかな議論の場 . . . . . 霜田 洋祐 03

### 学術情報リポジトリ

『言語科学論集』の紹介 . . . . . 山梨 正明 04

### 勉強法・研究法を伝授

学問の要諦は対話にあり . . . . . 東郷 雄二 06

「精聴」の勧め . . . . . 藤田 糸子 07

「図書館」へ行こう . . . . . 西井 正弘 08

数学、物理は丸暗記 . . . . . 宮本 嘉久 09

### 自著を語る

『戦後教育のジェンダー秩序』 . . . . . 小山 静子 11

『アラブ、祈りとしての文学』 . . . . . 岡 真理 12

『基礎環境化学：環境を化学反応から捉えるためのエッセンス』 . . . . . 津江 広人 13

### 所蔵資料紹介

利用という面での地図の価値 . . . . . 小原 丈明 14

### 環on 映画会

環on映画会へのお誘い . . . . . 17

私にとって環on映画会とは? . . . . . ナザロワ エカテリナ 18

環on映画会ポスター制作秘話 . . . . . 宮下 美美子 18

### 寄贈図書

### 特別図書

### 情報収集のコツ

(KULINEとMyKULINE)

### 図書館の活動

(人環・総人図書館の一年間、図書館利用者アンケート、図書館統計、貸出回数ランキング)

# ネビュラス

人間・環境学研究科長

堀 智孝

HORI Toshitaka

お笑い種だろうが、私は本を読むより飾るのが好きだ。学生の頃も両親のいるところから通っていたので、授業料はもとより下宿代や外食費を気にすることなく、親のすねかじりとはいえ、欲しい本をためらわずに買うことができた。大変恵まれていたと思う。しかし、買ってすぐには読まなかった。目次と前書きに目を向けただけで、そのまま本箱に並べていた。この習慣は教職に就いた今も続いている。本を飾るという癖は他人に見抜かれると恥ずかしいので、言い訳として“定年後に備えて、面白そうなものを買っておくのです。絶版になったら悔しいのでねえ”を繰り返してきた。同僚のひとりには、“ほりさん、定年の頃には視力が衰えて、時間はあっても余り読めないよ”と冷やかな助言をくれた。とにかく、自分が寄せ集めた本がすべて、背文字をこちらに向けて、きれいに並んでいないと寂しいのである。

学費以外にもう一つ恵まれたことがある。今から29年前、人環・総人の前身である教養部に助教として迎えられる、居室を配分して貰った。実験装置が居室の大部分を占領したので空白の壁は少なかったが、その残り少ない部分に棚を密着させ、自前の本、図書室からの借出本、知人からの恵贈本、先輩教員からの譲渡本、研究費で購入したもの、前任の研究室から移管して貰ったものを、次々と飾った。未だ一度も開いていないものがほとんどであったが、背文字が全部見えていると気分が解放され、事物の真相が見えてくるかのような錯覚に誘われた。論文や研究計画書を一気にまとめ上げる迫力が出てくるのも不思議である。

私は、“nebulous”という言葉が好きだ。“星雲状の”とか、“ほんやりかすんだ”とか、あるいは“漠然とした”との邦訳があるが、nebulousの原義には“ほんやりとして実態の見えないものが、突然何かを核にしてまとまり、やがて星になるさま”との意が含まれている。どこから始めれば都合よく行くのか、何処に立てば遠くまで見通せるのか、との自問に答えられないまま無為に過ごす時間は長

くて辛い。これに耐えるのが教員の務めだと言われればそれまでだが、壁際に並んだ書物の背文字を眺めながら、この暗い迷いに耐えてきた。しかし、時々幸運に恵まれた。友人が突然に約束の変更を言ってきたときである。時間つぶしに手近な本の適当な頁を開けると、たまたまそこに、長年疑問に思っていた話題が取り上げられ、しかも解決に繋がりそうな一文が提示されている。友のドタキャンに感謝した。

むかし、テレビが世に出始めた頃、新聞の衰退が心配された。テレビの速報性や活写性が、活字と静止画を基本とする新聞情報を凌駕するだろうとの予測である。その当時、面白い好笑が流行った。“テレビがあつたら新聞が要らなくなるという奴に言ってやれ！ テレビでゴキブリが叩けるかつ!!”。やや投げやりな新聞擁護論であるが、この擁護がなくても新聞は立派に生き残っている。テレビのように、あまりにも動きの速い多量の情報は視覚や聴覚に過重負担であって、却って記憶に残るところが少ないし、仮に記憶に残る部分があっても、その部分が不幸にして大勢の人に共通しているのである。これに対して、本の背文字は静止情報であっても、一緒に飾られている他の背文字と組合って、生まれては消え、常に新鮮な情報を創っている。そして、眺めている人ひとりひとりにそれぞれ違った記憶を刻んでいく。棚に飾った本だけで長年機嫌良く暮らしてきた私には、テレビに屈せず、新聞が生き残った理由がよくわかる。

来春、私は定年で退職する。63年目にして、ここに恥を忍んで、本を読まない性癖を告白したが、もし来世、再び人間に生まれて、教授という職責に恵まれたら、在任期間中は図書館の地下書庫から二千余冊を選んで借りだし、折々に背文字を交換しながら、研究室の壁に飾っておきたいものである。もちろんこの間、図書の出納は自分でやって、司書さん始め図書館利用の皆さんへのご迷惑は極力避ける積もりですがね。

(大学院人間・環境学研究科 教授、自然環境動態論講座)

# 机と棚

岡本 源太

OKAMOTO Genta

カードをとおし、ゲートをくぐる。銅色をした重厚な扉ふたつのむこうに、はるか下まで降りゆくエスカレータがつづく。奥底に見えるのは深紅の絨毯。一年ぶりに訪れたパリのフランス国立図書館(BnF)は、あいかわらず要塞のような相貌をしている。

このフランス国立図書館のなかで、僕はいま人環・総人図書館のために書いている。僕が知ることでできた図書館のうちで、まず筆頭にあげるべきがこのふたつ、フランス国立図書館と人環・総人図書館だろう。

ふつうに考えるなら、このふたつを並べるのには違和感がある。かたや、世界屈指の歴史(600年以上)と蔵書数(14,000,000冊以上)を誇り、職員数(2,500人以上)からして尋常でないフランス国立図書館と並べるなら、せめて日本の国立国会図書館だろう。また、大学という研究教育機関とわかちがたい人環・総人図書館のかたわらには、留学先だったパリ社会科学高等研究院(EHESS)の図書室あたりがちょうどいい。

けれども、このふたつの図書館は、僕の個人的な経験のなかで結びついている。毎週のように足を踏み入れた図書館はほかにもあれど、週の半数以上も訪れた(訪れている)図書館となれば、このふたつしかない。

とはいえ、このふたつは同じでもない。僕にとって、フ

ランス国立図書館はなによりもまず「机」だ。対して、人環・総人図書館はなによりもまず「棚」だろう。

フランスの大学には、研究室というものがほとんどない。学生の部屋もなければ、教官の個人研究室すらなかったりする。だから、学生も教官も図書館で、向かい合い、隣り合い、勉強をする。いま僕のふたつ隣の席には、よく知った大学教授がいる。そんなふうには、フランス国立図書館はいつも「机」を提供してくれる。

人環・総人図書館の机も、とくに学期末が近づくと賑わう。けれども、僕が人環・総人図書館に行くのは、家や研究室にある机を離れてのことだ。そう、机を離れて、図書館の棚まで書物を手に取りに行く。希望して所蔵してもらった書物も並ぶその「棚」を眺めると、知らない世界が順序よく見渡せて、愉しくなる。この「棚」の愉しみが、いつも新しい思考の揺籃になる。

だから、いまこのパリの「机」で育ちつつあるものも、いつかしら京都の「棚」で生まれていたのだろうと、そんな気がしている。

(大学院人間・環境学研究科 博士後期課程3回生)



フランス国立図書館(BnF)



京都大学人環・総人図書館の「棚」

# ささやかな議論の場



霜田 洋祐

SHIMODA Yosuke

週に一度くらいのペースで、外国語文献の読書会(読みあわせ?)のために環onを利用しています。図書館スタッフの方たちが思い描いていたとおりの使い方だそうです。しかし、どうやら私たちのような利用者は少ないらしい。何かもったいない気がしてならないので、思惑通りの利用者ゆえに図書館側の宣伝文句ときっと重なってしまうもおかまいなしに、好んで使っている理由を綴ってみます。

多くの人と同じように私も図書館は本を借りるか勉強をするかのほほいずれかのみを利用してきましたが、今年度のはじめから附属図書館の共同学習室を利用するようになって、図書館がひとりで本に向き合うだけの場所ではなくなっていました。ようやく図書館の中で話し合うことを覚えたのもあって、ささやかな読書会にも図書館を使えるかもしれないと考えました。しかし、共同学習室というやつは自学の空間から隔てられ、議論をたたかわせる場としてあつらえられています。テキストと辞書のほかに必要なものとしてなく、あとはほそほそと喋ることさえ許されればよいだけの作業に、このような部屋はいかにも仰々しい。かといって図書館のほかの場所ではふつう静粛にしていなければならないとされています。やはり喫茶店あたりが適切かと断念しかかりました(実際、環onが休みのときは喫茶店に参りました)。そういうわけで、人環・総人図書館が

話せる図書館を用意してくれていたこと、その存在に気づいたことは、私にとってちょっとした幸運でした。

はじめての者にはやや入りにくい感じのする入り口と、雰囲気作りのためなのか暗めの照明は別として、予約も利用届けもせず、誰にとがめられることなく、もちろん無料で、話し合いながら勉強できるのがこの売りです。利用者すべてが話をしているわけもなく、すぐ近くの机にはひとり読書をしている人もいます。それゆえこの場所は、自学のための空間の延長にあると感じられます。珈琲が飲めないのははなはだ残念ですが、喫茶店よりは共同「学習」に向き、それでいて「学習室」ほどに気張らずにすむのが居心地よい。辞書など参考図書が置いてあるとなおよいですが(話せる「図書館」なのだから)、これからもっと利用者が増えるにしたがってサービスも充実していくものと期待しています。

(大学院文学研究科 博士後期課程1回生)



環on カウンター席

## 情報収集ワンポイント!

### Q.レポートや論文を書くとき、引用のルールがありますか?

著作物の引用については、著作権法第32条、48条等で定められています。

先行研究の著者への敬意を示して引用し参考文献へ明示することが必要です。

- ①「公表された著作物」から引用すること(32条)
- ②「引用して利用する」こと(32条)
- ③「公正な慣行に合致する」こと(32条)
- ④「引用の目的上正当な範囲内」で行うこと(32条)
- ⑤「出所の明示」: 引用した「著作物の出所」を明示すること(48条)
- ⑥「主従関係」: 自分の文章が主で、引用が従であること(最高裁)
- ⑦「明瞭区別性」: 引用部分は括弧(「」)でくくるなどして、区別すること(最高裁)

#### 参考文献

1. 林紘一郎, 名和小太郎. 引用する極意 引用される極意. 勁草書房, 2009, pp.20-42. <1F 和書 816.5|川2>
2. 日本国語大辞典 第2版. 小学館, 2000. (JapanKnowledge) <http://www.jkn21.com/stdsearch/displaymain> <学内限定>

#### 禁止事項

- ねつぞう  
× **捏造**: でっちあげ。  
存在しない情報の作成。
- かいざん  
× **改竄**: 書き換えること。  
変造、偽装。
- ひょうせつ  
× **剽窃**: 盗用。

# 『言語科学論集』の紹介

山梨 正明

YAMANASHI Masa-aki

2008年より京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)にて公開され、好評をいただいております、『言語科学論集』について紹介いたします。

## 1. 『言語科学論集』

『言語科学論集』(英語名: Papers in Linguistic Science)は、人間・環境学研究科言語科学講座の山梨研究室が発行している研究紀要です。1994年の創刊より毎年発行され、すでに14号を数えています。これまでに論文を掲載した著者は計45名、掲載された論文はのべ77本に上ります。論文を掲載している著者には、言語科学講座の大学院生はもちろんのこと、全国の大学・研究機関に所属する言語学研究者や関連分野の研究者が数多く含まれています。

論文集の編集および発行準備の作業は、私山梨を中心に、山梨研究室の大学院生たちが協力して行っています。院生たちにとっては、毎年責任者・担当者を交代しつつ相互に編集作業にあたることで、アカデミックな出版のプロセスを経験する貴重な機会になっております。なお、現在第15号の編集を行っており、今年度中に刊行が予定されているところです。

## 2. 『言語科学論集』の学問的特徴

『言語科学論集』には、その名の通り、言語についての学問の研究成果が収められています。一口に言語についての研究といっても、『言語科学論集』に寄せられる論考の射程はたいへん幅広く、音声学・音韻論・形態論といったマイクロレベルの現象に対する分析から、会話分析・コミュニケーション論や言語人類学といった言語をとりまくマクロな構造の分析まで、多岐に渡っています。

なかでも特筆すべきは、多くの論文が認知言語学という理論的パラダイムに基づいたものである、という点にあります。認知言語学とは、1980年代よりアメリカ西海岸を中心に発展した言語学の一分野です。認知言語学の理論的特徴は、それまでの言語理論が言語を人間に生得的な計算能力とみなしてきたのと対照的に、言語に反映される

知覚・推論のメカニズム、身体性、そして主体と環境とのインタラクションなどに着目する点です。具体的な研究テーマとしては、イメージスキーマ・カテゴリー化・参照点といった一般的認知能力の観点からの言語分析、日常言語を特徴づける主観性、身体性の研究、自然言語の意味変化、文法化、などのプロセスの解明、メタファー、メトニミーなどの日常言語のレトリックの研究、語彙と構文の多義性のネットワーク・モデルの研究、談話・テキストのコミュニケーションのメカニズムの解明、大規模コーパスに基づく言語データの計量分析／統計分析、などが挙げられます。

『言語科学論集』は、こういった認知言語学研究のみを限定的に掲載しているわけではありませんが、これまでの論文はいずれも多かれ少なかれ、認知言語学の言語観や問題意識を共有していると言えるでしょう。認知言語学そのものはまだ若い学問分野と言えますし、日本国内での受容や日本独自の研究の展開という点でも、決して長い歴史があるとは言えません。日本認知言語学会の第1回全国大会の開催が2000年ですから、その6年前の1994年から毎年発行されてきた『言語科学論集』が、日本の認知言語学の歩みの中で果たしてきた役割は、決して小さいものではないと自負しております。なお、日本認知言語学会の第10回記念大会が、この9月に京大の吉田南キャンパスにて盛大に開



『言語科学論集』第14号の表紙

かれました。この京都大学のキャンパスは、日本の認知言語学の発展の中心として、現在も機能し続けています。

3. 『言語科学論集』とインターネット公開

ここで改めて言うまでもなく、科学という営みは、個々の研究者がそれぞれの閉じた世界の中で行うものではなく、お互いの研究の良いところを取り入れつつ、相手が解決できていない問題に照準を定めて少しずつ問題の解決を目指していく、言わば研究者同士による共同作業です。したがって、論文は単に出版すること自体が目的となるべきではなく、他の研究者の目に触れ、影響を与え、(時に厳しく批判的な)フィードバックを受けることが何よりも重要です。他の研究者に読まれてこそ、その論文に本来備わっている価値が十分に発揮されると言って良いでしょう。

我々の『言語科学論集』もこれまで、発行された号を身近な関係者で共有するに留まらず、全国の大学図書館や言語学関係の研究室に送付し、所蔵していただいております。近年では、テクノロジーの発達と情報化社会の流れを背景に、研究室ウェブサイト (<http://clsl.hi.h.kyoto-u.ac.jp/>)にて既刊分の公開を行ってきました。

このように、既刊号の公開・配布を積極的に行ってきた『言語科学論集』ですが、2008年11月に京都大学学術情報リポジトリに登録してからは、ありがたいことに一層多くの方に利用いただくことができております。リポジトリ登録以来の9ヵ月間において、一ヶ月あたりのアクセス数はおよそ1,000件、論文のダウンロード回数はおおよそ650回に上ります。これは、論文集のページへのアクセス数でいえば研究科全体の



京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)  
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

3割強、論文のダウンロード回数では全体の4割を占めています。予想をはるかに超える数に、ただ驚くばかりではありませんが、それだけ多くの方に読んで頂いていることに、学問の担い手の一人として、襟を正す思いでもあります。

インターネットを利用することで、より多くの方により容易に論文にアクセスしていただくことが可能になり、ウェブサイトを訪れた方々からも、論文執筆者の方々からも、たいへんな好評をいただくことができております。特に、リポジトリを利用することで、研究上の関心を同じくする研究者から論文が発見されやすくなりました。インターネット上で論文を公開することのメリットの一つは、執筆者本人の知名度に関わらず、内容的に興味深いものであれば、幅広く読んでもらうことができるという点にあります。この点は、研究室の紀要という性質上、院生や若手研究者による論文が多い『言語科学論集』にとって特に重要であり、その意味でもリポジトリへの登録は非常に意義深いものと思います。

(大学院人間・環境学研究所 教授, 言語科学講座)



当研究室ウェブサイトのトップページ  
<http://clsl.hi.h.kyoto-u.ac.jp/>

情報収集ワンポイント!

Q. 学術情報リポジトリ掲載のメリットは?

- ・より多くの人々に研究成果を読んでもらえます (若手研究者等の育成、支援にもなります)
- ・研究のインパクトを高めることができます
- ・京都大学が研究成果を保存・継承します (研究室でメンテナンスする手間が省けます)

★京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)は、スペイン高等科学研究所が作成する世界の機関リポジトリ・ランキング(2009.07)において、国内第1位、世界第24位の評価を受けました。

# 学問の要諦は対話にあり

東郷 雄二

TOGO Yuji

大学での勉強法・研究法については、この文章の最後に参考文献としてあげた拙著で詳しく解説したので、技術的な点はそちらに譲るとして、ここでは少し違った角度から学問について考えてみたいと思います。

## 1. 先行研究と対話する

ここではいわゆる文科系の中でも、哲学・歴史学・文学・国語学・言語学・法学など、文献資料を相手にすることの多い研究を念頭に置いています。これらの研究では、資料の探索とそれを読むことの比重が高いです。自分の研究テーマに関係する本や論文を図書館などから探してきて、ひたすら読むわけです。いかにも本の虫といった孤独なイメージが漂いますね。

ここで声を大にして言いたいのは、「学問とは対話である」ということです。「一人で本を読んでなのに、どこが対話やねん」というツッコミが入りそうですが、これは真実なのです。

文科系の学問に限らずすべての学問は、問いと答えの対として成立します。物質の究極の単位は何だろうかとか、産業革命がいち早くイギリスで成立したのはなぜだろうかといった問いです。他の研究者の論文を読むときは、その著者が立てた問いと出した答えが妥当なものかどうかを考えます。ここに著者とあなたの対話が生まれるのです。読んでいるあなたの心の声を言葉にすると、「そのとおり」とか、「そんなバカな」とか、「これはちょっと疑問」などとなるでしょう。実際に私はコピーした文献の余白に、こういうちょっとしたコメントを書き込みながら読んでいます。これが先行研究との対話で、著者がたとえ100年前の人でも、時空を超えて対話が成り立ちます。学問とは将棋やチェスのように相手のある人間的な世界なのです。

## 2. 研究の世界の人と対話する

学問が対話であるということのもうひとつの意味は、論文の指導教員、同じ研究室の学生、学会で知り合った人など、今度は生身の人間との対話が大事だということなのです。

卒論などの論文指導のために学生と一対一の面談をされていて感じるのですが、手ぶらで来る人が多い。読んだ本や論文の内容のメモとか、考えたことの断片とか、何か書いたものを持参するのがよいでしょう。対話はテニスやピンポンのようなものです。あなたが相手のコートに球を打ち込んで初めて、相手から球が返って来るのです。あなたが手ぶらでは対話は始まりませんね。

内輪の勉強会や卒論の発表会や学会などで研究発表をするときも、対話の比喩が成り立ちます。仮に自分の研究内容がぜったいに正しいという自信があっても(学問の世界では「ぜったい」は禁句ですが)、聴いている人たちが納得してくれなければいけません。そのためには自分の主張に十分な根拠を示しながら、相手を論理的に説得する必要があります。これを文字にしたものが論文に他なりません。「自分はわかっているのに」といくら思ってもそれは無意味です。対話は自分の考えをきっちりと言葉にすることから始まります。学問の世界では思考を言語化する能力が求められるのです。

## 3. 対話に疲れたときは

最後に、対話に疲れたときの秘訣をお教えしましょう。論文をたくさん読んで頭がパンパンになり、これ以上前に進まないというときは、私は散歩に行くか、ぼうっとTVを見ることにしています。歩行のリズムは頭脳をクールダウンする効果があるようです。またTVドラマなどをぼんやり見ているときに、アイデアが浮かぶことがよくあります。特に何かサスペンス劇場といった2時間ドラマを見ているときにアイデアがよく閃くのは不思議で、誰かこの謎を解明してくれないかと考えているところです。

(大学院人間・環境学研究科 教授, 言語科学講座)

### 【推薦図書】

東郷雄二, 文科系必修研究生生活術 新版.(ちくま学芸文庫, ト-11-1)筑摩書房,2009.<1F 教員図書 002.7||B||4>

# 「精聴」の勧め

藤田 糸子

FUJITA Itoko

英語力を上げるためには大量の英語を聞く必要があるということで、「英語のシャワーを浴びよう」などと言われます。ただ、「英語のシャワーを浴びる」だけでは、聞いた事が身体の表面を伝わってどんどん流れ去って行ってしまう、そんな感覚に捕われたことはないでしょうか。

「大量の英語を聞く」ことはもちろん重要ですが、時には、リスニング用教材の一つ一つを丁寧に活用する「精聴」も大変効果的だと、私は考えています。本稿では「精聴」について簡単にご紹介しますので、ぜひトレーニングの一部に取り入れてみてください。

## 教材

一つの文章が余り長いと何度も聞くのが嫌になりますから、5～10分くらいのものを選んでください。内容にまとまりがあり、スクリプトが付いていれば、何でも結構です。ただ、興味がある分野だけから選んでしまうと語彙や表現が偏りますので、できれば、幅広いトピックの中から選んだ方がよいと思います。

## 手順

1. まず、メモを取りながら教材を聞き、内容を口頭で要約します。「分からないところは後でもう一度聞こう」などと思わず、一発勝負だと思って取り組んでください。
2. (1)で理解できた(言えた)ことが現状での実力と受け止めた上で、あとは、理解度を上げるために繰り返して聞きます。要約の方は文章に書いて精度を高めます。
3. スクリプトを見て、自分が聞き取れなかった部分を確認します。次にスクリプトを音読して正しい音を身体の中に入れ、その上で、もう一度スクリプトを見ずにもとの文章を聞きましょう。この段階で、「完全に隅々まで分かって」聞けるはずですから、その感覚を実感してください。口頭要約も完成度を高めて行なってください。
4. 後日、もう一度、同じ教材を聞き、やはりメモを取りながら聞いて口頭要約します。ある程度、「記憶」を使ってしまおうとしますが、気にせずにやります。さらに、内容に関して自分のコメントを述べ、そのコメントを文章にしてみましょう。

## ボイスレコーダーの活用

以上のプロセスのうち、最初の口頭要約、スクリプトを見ての音読、スクリプトを見た後の口頭要約、後日の口頭要約、自分のコメント、の各段階で、自分の声をボイスレコーダーに録音してみてください。

- 録音した自分の声を聞いて、
- ・正しく声が出ているか
  - ・リズムやイントネーションは適切か
  - ・発音は正しいか
  - ・「ウー」「アー」とかいった言葉が過度に入っていないか
  - ・正しく要約できているか
  - ・コメントの内容は適切であるか
- 等をチェックしてみてください。

最初、自分の声を聞くのは気恥ずかしいものですが、人が聞いているのはこの声／話し方なので、勇気を持って自分の声と「向き合って」ください。自分の声を聞くことに慣れてくると、自分の話し方を客観的に観察したり、話し方を修正したりすることが楽しく(?)なると思います。

以上のトレーニングは一人でも可能ですが、自分の話し方が適切かどうか、あるいは自分の書いたものが正しいかどうか、など、自分だけでは判断しにくいこともあります。一緒にトレーニングする人や助けてくれる人がいた方が、より効果が上がりますし、長続きもするでしょう。

## 「聞く」から「話す」「書く」へ

テレビ、ネット、映画、Podcast、CD、DVD等々、リスニング用教材は身の回りに溢れています。しかし、手軽に入手できるだけにあれもこれもと手を出してしまい、結局、余り身に付かなかったという経験をお持ちの方も多いのではないでしょうか。そのような方は、ぜひ一度「精聴」を試してみてください。確かに「精聴」にはかなりのエネルギーが要るかもしれませんが、その効果は、「聞く」のみならず「話す」「書く」についても、必ず身体の中にしっかりと残ると確信しています。

(大学院人間・環境学研究科 講師, 外国語教育論講座)

# 「図書館」へ行こう

西井 正弘

NISHII Masahiro

図書館が変化している。情報メディアセンターと一体化した施設に変わった大学もある(表)。図書や雑誌も、情報を入手する方法の一つとすれば、電子媒体を通じた情報流通と異ならないかもしれない。しかし、図書館は、自宅であるいは研究室で向かい合うパソコンの画面と異なる「空間」ではないだろうか。

私にとって図書館の思い出は、中学校の図書室に遡る。南向きの図書室で司書の先生と新着雑誌の整理をしていたこと、高校時代には、旧制第六高等学校時代からの図書室で、背伸びして難しい本を読もうとして挫折したこと、いずれも半世紀前の話である。

1965年に京都大学に入学して利用させてもらったのは、現在の吉田南構内にあった教養部図書室である。グラウンドの南側の木造の建物の中にそれはあった。講義の中で先生が挙げられた書籍を借り出して読んだ。最も長時間図書館にお世話になったのは、国家試験を受けるための受験勉強をした「附属図書館」(現在の場所にあった前の建物)の2階である。毎日ほとんど同じ席に腰掛けて、暑い時期には汗が本に滴ることもあった。1969年大学院法学研究科に進学してからは、部局の図書室が行きつけの場所になった。

大学院時代に恩師から言われた「毎日、図書室に本の背文字を見に行きなさい」という言葉が忘れられない。毎日のように新しい本や雑誌が並べられ、またそれまで気付かなかった本との出会いがあり、興味を持った本をその場で読んでみる、あるいは借り出してみると新しい発見がある。研究室に必要な本を揃え、忙しいことを口実に図書館に足を運ぶことがめっきり減った昨今であるが、「人環・総人図書館」に行く度に、何らかの発見がある。

インターネットによる検索の便利さは否定しない。特に、文献のかかなりの割合が、パソコンの操作によって、直接プリントアウトできることの有難味は実感する。昔、製本された重い本を何冊も図書館から借り出して、コピーをとり、ファイルの為に、二つ折りして、穴をあけていた頃のことを

思えば隔世の感がある。Googleをはじめとする「検索機能」は大変有用だが、信頼できる情報であるかどうかの見極めが、初学者には難しい場合もある。インターネットが唯一の情報入手方法でないことを早期に身に付けて欲しい。図書館で本を探すことは、ウインド・ショッピングにも似て、掘り出し物に遭遇することがある。

講義や入門書で、ある程度の基礎知識を身に付けた後は、最新の研究論文や専門書を読むことから始めるべきだと思う。また、同一テーマに関する複数の文献を読むことによって、当該分野の「理論水準」や「問題の焦点」が明確になる。専門書には、「注」や「参考文献リスト」が不可欠であり、複数の文献に引用されている先行研究は必読の文献であることが、「芋づる式」に理解できる。

図書館も進化する。2008年4月吉田南構内にできた「環on(わおん)」は、「話せる図書館」であり、従来の図書館の「閲覧室」からは一歩進んだ形態であろう。「楽しくなければ学問でない」ということは間違いだが、「学問に面白さを見つける」ことは必要だし、図書館にこそ「面白さ」が隠されているように思える。

表 図書館と情報メディアセンターの名称数の比較

	図書館		情報メディアセンター		メディアセンター図書館		計
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)	
国立大学	275	94	14	5	3	1	292
公立大学	97	62	34	28	12	10	123
私立大学	838	89	87	9	16	2	941

典拠：日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編.図書館年鑑 2009. 日本図書館協会,2009. pp.642-676.  
日本図書館協会図書館調査事業委員会編.日本の図書館 2008 日本図書館協会,2009. pp.281-398.

注：いずれの典拠資料も、統計の調査時点は2008年5月1日現在。4年制大学のみ。「図書館」には「図書室」、「ライブラリー」を含めた。「情報メディアセンター」には「情報センター」のような「〇〇センター」や「メディアライブラリー」等類似名称を含めた。

(大学院人間・環境学研究科 教授、現代文明論講座)

# 数学、物理は丸暗記

宮本 嘉久

MIYAMOTO Yoshihisa

「物理や数学は暗記物」とか「理系の科目を苦手と  
思っている人は、これらを理解すべき科目と信じていて  
暗記しないから」という暴論に賛意を示してくれた人は  
いまだかつて一人もいない。「勉強法」について、この機  
会を借りて同じことを懲りずに主張しようというのである。

何かを勉強しようとするとき、新しい用語、学術用語が  
登場する。用語の意味を了解し、用語を用いてある概  
念を導入し、これを繰り返して世界を広げていく。その都  
度、具体例に照らして用語や概念の意味を確認し、同  
時に、近い分野や離れた分野との関係を吟味しながら  
まとまった概念を構築する。まとまった概念といっても、こ  
れは一つの段階で、これを基にまた同じような作業が始  
まる。この過程を「理解」しながら進めていくのが清く正  
しい勉強法なのでしょう。でも、これら一群の概念や分野  
独特の幻想を理解するには時間がかかる。少年老い  
易く、そんなにはいちいち時間をかけていられない。そこ  
で、理解するのは20年早い、と覚悟を決めて丸暗記。  
「子曰く」や、九九を憶えずに理解した人はいないので  
はないか。

物理や数学の丸暗記も、教科書や問題集の本文、  
例題、演習問題を全部憶えるのである。声を出してでも  
いいし、書いてもいい。憶えたことを忘れるのも大切だけ  
れど、これも3年早いのでとりあえず暗記する。ただし、こ  
れを書いている人間はこんなことはしていないし、できも  
しない。勉強法の1つを提案しているだけである。

大学受験のとき、数学や物理も「勉強」としては暗記物  
と考えるほうが楽ではないかと思っていた。その後、いくつ  
かの経験から「数学や物理は暗記物」と頑迷に信じ込ん  
でしまっている。中でも印象の強い話を聞いてください。

ときは1972年春、理学部の2回生。映画や芝居を見  
るのに忙しく、2回生で出席する講義は語学、体育を除  
いて1つか2つとっていると、同級生のH君が藤家龍  
雄先生の数学2をとろうという。ルベーク積分と説明が

ある。藤家先生とは2月の保健体育主催スキーツアー  
と一緒に滑っていただいたこともあり、「ルベーク積分」  
は初耳だったけれどこれ1本に決める。講義は木曜1  
限、今の吉田南総合館中庭にあった木造2階建の2階  
の講義室。参考書「ルベーク積分入門」を買って準備  
万端である。

2回生の秋までは神戸から通っていたので、講義の  
前日は三宅八幡にあるH君の下宿に泊めてもらい、夜  
中まで飲んで喋って講義に出る。通年の講義で遅刻が  
少しあるだけの全出席、黒板を写しただけのノートも完  
璧である。

当時は定期試験になると大学では「ストライキ」なるも  
のをしていた。1973年の2月もしていたはずだけれど何ら  
かの方法で試験があった。最後の講義で藤家先生は  
「試験には2問出題する。そのうち1問は言うておく」。そ  
の問題は「1次元のルベーク測度を構成せよ」。講義  
後、H君「お前、問題の意味分かるか」、「1次元は分か  
る。ルベークは人の名前。測度は速さ、構成せよは社会  
復帰しなさい」、「同レベルやな」。ということで、試験の  
前日に互いの成果を披露することにした。

完璧なノートやぜんぜん読んでない参考書を見るも  
進歩なく、全出の講義の4単位が霞んでいくのに、すぐに  
試験前日。H君「どや?」、「なんもわからん」、「こらMしか  
ないな」。M君というのは大学のそばの実家に住んでい  
る数学の得意な同級生である。家に押しかけると幸運  
にも在宅で、「この答教えて」。M君「どっから始めたらい  
い?」、「まったく分かってない人間にも分かるように」。M  
君はノートに何か書きながら「○※Ψ△≡☆×▽」、「もう  
ええわ、とにかく答をつくってくれ」。H君と無駄話をしてい  
ると、「できた」。日本語交じりの奇っ怪な記号の塊を、そ  
の書き方だけ説明してもらい、ノートに写す。とりあえずの  
お礼をM君に言って、H君と「これ憶えるしかないな」。

下宿に帰り、書き直すとB5用紙にぎっしり書いて5枚。  
書く練習を5回するとさすがに試験でも書ける気がしてくる。

4単位に手ごたえを感じつつ試験に臨む。ところが、配られた解答用紙を見て愕然。B4用紙1枚表裏だけを使い、という指示がある。どこかを簡潔にするという能はないので、できるだけ小さい字で端から書いていく。憶えたことをすべて吐き出して一息つくと、解答用紙に少し余白があ

るし、時間もある。2問目を読んでも意味は分からないけど、なんと何がしかの解答が書けるのである。試験が終わると、H君曰く「おい、2番の答えが書けたぞ」。

数学は暗記物である。

(大学院人間・環境学研究科 教授、物質相関論講座)

## 情報収集ワンポイント!

### Q.参考文献を整理するための、よい方法がありますか？

論文やレポートを書くたびに、大量の参考文献をExcelやWordで整理してきた方や文献の整理をしたことがない方は、ぜひ文献管理ツールを使ってみてください。文献管理ツールは、文献の一元的管理による論文執筆の効率化を目的としています。京都大学では、RefWorks<sup>1)</sup>やEndNote Webを使うことができます。

## Ref Works

### ▶RefWorksとは

「研究成果や電子リソースから収集した学術情報を蓄積・管理し、それらを共有化したり、情報発信するための」ウェブ上で使える文献管理ツールです<sup>2)</sup>。

2002年のリリース以降、北米を中心に世界1200以上の機関で導入されています。京大では2009年1月から導入しています。

### ▶RefWorksでできること

- ① 先行研究の論文や図書等の文献リストの作成
- ② 個人データベースの構築
- ③ データベースから、文献書誌情報(レコード)の取り込み
- ④ 論文リストのグループ内共有・公開
- ⑤ 執筆中の論文に対応する参考文献リストの瞬時作成 …など

### ▶はじめて使う場合(アカウントの作成)

RefWorksを初めて使う場合は、事前にユーザー登録「アカウントの作成」が必要です。

- お名前: 自分のお名前
- ログイン名: ECS-ID (a00\*\*\*\*)  
(学術情報メディアセンターに申請する情報環境機構の「教育用コンピュータシステム利用コード」)
- メールアドレス: 末尾が[.kyoto-u.ac.jp]のものに限る
- ユーザータイプ: プルダウンから「ユーザータイプの選択」

### ▶RefWorksへのログイン

- RefWorksログインセンター <http://www.refworks.com/refworks>

### ▶RefWorksの使い方を学ぶには

- (方法1) 附属図書館参考調査掛作成の次のサイトをご覧ください。  
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/erhelp/citation.html#refworks>
- (方法2) 附属図書館等では、RefWorksを中心とした文献管理ツールの使い方を実習しながら学ぶ講習会があります。Webサイトの「[京都大学図書館機構](#)」—「[学習/研究サポート](#)」—「[講習会](#)」の情報で予定を確認しご参加ください。
- (方法3) RefWorksログインセンターにリンクした「チュートリアル」(英語)で学べます。

### ▶FAQ

- (Q1) Excelで管理していたデータをRefWorksで管理し直すことができますか?  
Excelのデータを「RefWorks Tagged Format」(京都大学ではダウンロード可)を使って編集を行うことにより可能になります。(詳しくは、<http://www.sunmedia.co.jp/e-port/refworks/faq/>)
- (Q2) 京都大学を卒業したり、他機関の所属になったりした場合、RefWorksのデータは使えますか?  
学生のみ卒業後も継続利用が可能ですが<sup>1)</sup>。また、「データ転送」のメニューから、「TAB区切りTEXT形式」「XML形式」などの形式で出力が可能なので、データを他の文献管理ソフトやテキストファイルに移すことができます。

### 参考

- 1) RefWorksのアカウントは学生のみ卒業後も継続して利用可能になりました(2009年10月1日からのAlumni Programによる。教員、職員は対象外)。利用期間は京都大学がRefWorksの契約を継続する期間に限りです。
- 2) サンメディア。 <http://www.sunmedia.co.jp/e-port/refworks/>



文献管理ツール(RefWorks/EndNoteWeb)を使う  
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/erhelp/citation.html#refworks>



RefWorksログインセンター  
<http://www.refworks.com/refworks>

# 戦後教育のジェンダー秩序

勁草書房, 2009年5月  
ISBN:9784326653416

小山 静子  
KOYAMA Shizuko

本書は、戦後すぐから1960年代後半までのおよそ20年間の間に、戦後教育のジェンダー秩序がどのようにして成立していったのかを論じた本である。戦前の教育制度は、中等教育段階以降において男女別学体制が成立しており、「女子向きの教育」と「男子向きの教育」とが並存していたが、戦後は、教育機会の男女均等が実現し、教育制度上の男女平等が実現した。したがって、なぜ戦後教育とジェンダーとが研究課題として存在しているのか不思議に思われるかもしれない。いったいどうしてわたしはこのようなテーマで研究を行うことになったのか、ここではその動機について述べてみたいと思う。

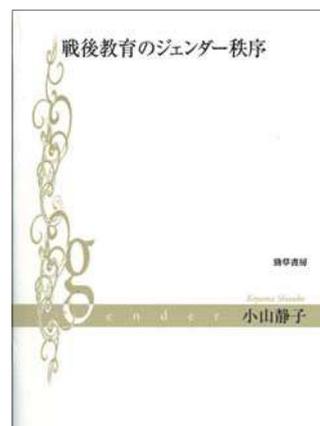
以前に、ある研究会で、わたしの研究は極私的研究だと言ったら、妙に感心された(あきれられた?)ことがある。ここでいう極私的な研究とは、極めて個人的な経験を足がかりにして、わたしたちが生きている社会のありようを明らかにしていこうという志向性をもった研究のことであるが、本書もその性格が濃厚な本である。

わたしは男女比がアンバランスな、つまり女子の数がかなり少ない高校と大学に通ったが、その結果、当時は何と表現していいかわからない微妙な感覚を味わうことになった。それは、威信の高い学校に通っているということである種の「優秀さ」を示すとされながら、女の子がそういう学校に通うということはある種の「マイナス」とみなされるというものである。後者の感覚は、同じ学校に通っていた男子にはなかつただろうし、もしかしたら現代の若い女性にも縁遠いものであるかもしれない。いったいどうしてわたしはこんな気持ちになったのだろうか。この問いを解き明かしていくためには、教育制度上の男女平等とは別個のところ、戦後教育にどのようなジェンダーの問題が埋め込まれているのか、考えていく必要があるようにわたしには思えた。

そしてもう一つ、研究の推進力を与えてくれたのは、若い学生たちであった。学生たちに、ほんの十数年前まで、中学校や高等学校の家庭科は女子だけが学んでいたことや、四年制大学よりも短期大学に入学する女子の方が多かったことを話すと、驚かれます。彼ら・彼女らにとって家庭科の授業を男女ともに学ぶことは当たり前のことであるし、男女共学か男女別学か、短期大学か四年制大学かという問題は、単なる選択の問題と考えている者もいるようだ。しかしいうまでもないが、単なる選択の問題として存在しているほど、わたしたちは男女平等な社会に生きているわけではないし、もしも当たり前のことと感ぜられるのであれば、それに至る歴史というものを知っておかなければならないように思った。

このような動機に支えられて、この研究をすすめていったが、本書では、高等学校における男女共学の問題、短期大学が女子教育機関と化していった経緯や女子学生亡国論、そしてこれらの議論が生み出された社会的背景としての「家庭づくり」政策を取りあげている。これから戦後教育のジェンダー秩序がどのようにあぶり出されていくのか、その中身については読んでのお楽しみということにしておきたい。

(大学院人間・環境学研究科 教授, 人間社会論講座)



372.1
S
25
人環総人

(配置場所: 1F 教員図書)

# アラブ、祈りとしての文学

みすず書房,2008年12月  
ISBN:9784622074236

岡 真理  
OKA Mari

金田一耕助やエルキュール・ポアロなど「名探偵」と呼ばれる者たちは実は無能だ。彼らはいつも事件が起きたあとにやって来てうろろうした挙句(その間も事件は起こり続ける)、彼らが事件の全貌を解き明かすのはことがすべて起きたあとだ。小説もまた、そうだ。小説はつねに遅れてやってくる。ジャーナリズムが「今、ここで」起きている現実を、時を措かず世界に伝え、そうすることで現実への介入を可能にするのに対して、小説が書かれるのは、出来事がすべて起きてしまった遙かのちのことだ。出来事の渦中で人は小説など書くことはできない。

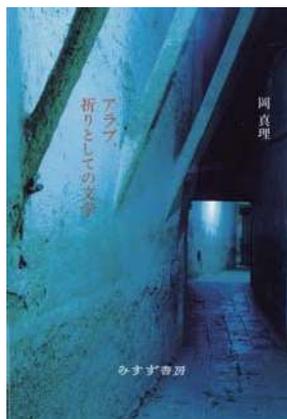
小説の無能さとは結局のところ、アラブ小説を研究する私自身の無能さの謂いである。2009年9月、第二次インティファダ(イスラエルの占領に対する占領下民衆の一斉蜂起)が勃発したパレスチナでは日々、パレスチナ人が殺されていた。「今、そこ」で人々が理不尽に殺されているとき、小説を読み、それについて書くことにどんな意味があるのか……アラブ小説研究者であることは、おそろしく役立たずで無能なことのように思われてならなかった。

アラブ小説をめぐる連載の話があったのはそんなときだった。準備期間を経て2006年末から足かけ3年続いた連載で、15あまりの作品をとりあげて論じたが、そこには、パレスチナでパレスチナ人が虫けらのように殺されているとき小説に何ができるのかという問いが伏流水のように流れていた。このような状況にあってなお小説がそれでも書かれるということ——なぜ、何のために、誰のために、誰に向かって……?——、そのことの意味を1年半、考え続け、そして自分なりに答えを得た。小説は無能である。今、そこで殺されている者たちに対して小説は何もできない。だが、小説が書かれ、そして読まれる意味とは、逆説的にもこの無能さにこそあるのだということ……。

イスラエルによるガザ攻撃が起きたのは本書の出版からわずか数週間後のことだった。出口なしの空間に閉じ込められた150万もの人々が、闇の中で、いつ果てるとも知れない砲撃や爆撃にさらされ、殺され続けた。その間ずっと空爆下のガザから、ひとりの英文学の大学教授が、「今、ここ」の現実を報せるメールをインターネットで世界に発信し続けた。私はそれを日々、日本語に翻訳し、メーリングリストに発信した(一連のメールは『ガザ通信』というタイトルで直ちに一冊の本にまとめられた)。現在進行形の出来事の只中であって小説が不可能なとき、日誌こそが、私たちに残された唯一可能なエクリチュールだった。

ガザ攻撃について、まだ小説は書かれない。だが、いつかやって来るだろう。忘却という冥界に葬り去られた死者を私たちの記憶に甦らせるために。この世に生まれ出ることなく、母親の子宮の中で恐怖を味わい尽くして死んだ胎児が羊水に浮かんで見た夢を私たちに語り聞かせるために。私はそれを待ち続けている。

(大学院人間・環境学研究科 教授, 比較文明論講座)



929.7
A
2
人環総人

(配置場所: 1F 教員図書)

## 【関連図書】

サイード・アブデルワヘド著; 岡真理, TUP訳ガザ通信 = The message from Gaza. 青土社, 2009.<1F 教員図書 319.8[G]17>

# 利用という面での地図の価値

小原 丈明

KOHARA Takeaki

## はじめに

普段、皆さんはどのような地図<sup>1)</sup>を使っているのだろうか。また、どのように地図に接しているのだろうか。多くの人が旅行などをする際に知らない場所や目的地を確認するために用いているであろうし、あるいは、目的もなくただ地図を眺めて楽しんでいる人もいるであろう。逆に、地図なんて普段の生活では使わないという方もいるかもしれない。しかし、交通機関の路線図や道路案内図などは巷に溢れ、新聞やテレビなどのマス・メディアには、報道対象となる場所を示す簡略な位置図が示されているなど、現代社会での生活では、本人が気付かないうちに地図と身近に接している状況にある。

地図にはこのような実用的な使われ方だけでなく、別の使用のされ方もある。筆者が専門分野とする地理学では地図を研究の資料として、分析のツールとして、そして考察の結果を示す表現方法として積極的に活用している。もちろん研究だけでなく、教育の場でも地図の効用を重要視しており、例えば、本学の全学共通科目の「地理学基礎ゼミナール」や「同II」では、地図から事象を読み取るだけでなく、自ら正確な地図や歪んだ地図など様々な地図を描くことで、地図を生活に活かす能力を身につける授業を行っている。

また、研究上における地図の活用方法・程度は学問分野によって大きく異なるであろうが、何らかの形で地図は多くの分野で利用されていると思われる。とりわけ、学問の学際性が叫ばれ学問分野間の垣根が低くなり、既存の研究手法に依らない新たな方法論が生み出されてきている昨今、それまで地図を積極的に活用してこなかった分野でも、新たな研究資料として地図を重要視する方向にあるといえよう。

## 地図室設置の経緯

さて、皆さんは人環・総人図書館に地図室ができたことをご存じでしょうか。整理中であり、まだ十分には利用できない状態であることから、厳密には、今はまだできつつある状態であるが、近い将来多くの方に利用していただけることとなろう<sup>2)</sup> (図1)。現在、その地図室には人間・環

境学研究科の地球環境動態論分野と地域空間論分野が所蔵・管理していた地図が保管されている。どのような地図が保管されているのかを紹介する前に、地図室が設けられた経緯を簡単に記しておこう。

そもその発端は、筆者が属する地域空間論分野所蔵の地図の一部を人環・総人図書館に移管できないか相談したことにある。当分野所蔵の地図は吉田南2号館や4号館、人環棟などの複数の部屋に分かれて保管されていた。しかし、昨年度をもって山田誠先生がご退任されたことから吉田南2号館と4号館の部屋を返却することになり、それらの部屋にあった大量の地図の保管場所を変える必要が生じた。可能な限りは人環棟にある当分野の部屋に移したのであるが、部屋の減少による保管スペースの減少は如何ともしがたく、どうしてもすべての地図を収納することはできなかった。そこで、上記のごとく、図書館にご相談した次第である。

図書館側からいただいた返答は好意的なものであり、単に地図を図書館に移管するのではなく、地図室を新たに設けて地図の保管形態を整備し、多くの人が利用できる体制にしてみてもというものであった。先に記したように、それまで当分野の地図はまとまって保管されていた訳ではなかったため、当分野に現在所属する、あるいはかつて所属していた教員や学生でさえも、どこに、どのような地図があるのかは十分には理解していなかったと思われる。かくいう筆者も、地図室に移設する際に初めて目に



図1 地図室の様子

した地図が数多くあった。まして、当分野以外の多くの方は当分野にそのような地図資料があったことさえもご存じなかったことであろう。それゆえ、地図資料の保管場所が得られたという意味だけでなく、これまで十分には利用されてこなかった地図を、多くの方に利用してもらえることになるという意味においても、図書館側からのご厚意は大変有難いものであった。

ただ、当分野で収納しきれなくなった地図をそのまま地図室に移すのでは地図の保管形態を整備することにはならないことから、これを機に地域ごとに地図を整理して保管する作業を行った。そこで、日本の諸地域の地図と世界の諸地域の地図とに分け、前者を当分野の教室で、後者を地図室で保管することにした。

**資料の特色**

前置きが長くなったが、ここからはどのような地図があるのかなど、地図室の地図に関する具体的な話に移る。当分野は旧教養部の人文地理学教室の流れを汲んでおり、その時々在籍していた教員が個人研究用や共同研究用として、あるいは教育用として地図を収集してきた。つまり、各々が必要とする地域の地図を収集してきたことから、日本や世界の諸地域の地図が網羅的に揃っているわけではなく、それら地図が刊行された時期もバラバラである。それゆえ、利用者が求める地図が必ずしもあるとは限らない。また、それらは研究用・教育用として収集されてきた地図であるから、おそらく貴重な古地図のように存在自体に高い価値があるようなものはないと思われる。

**<地形図>**

とはいえ、これまでの在籍教員は日本国内だけでなく、世界中の様々な地域を研究対象としてきたことから、広範な地域の様々な地図があるといえよう。その主な地域と地図の内容については表1に示す。世界の諸地域の地図の中で比較的豊富に揃っているのはヨーロッパ諸国であり、特にイギリスやフランス、ドイツなどの国々の地図は多い。それらの国々をはじめ、スペインやイタリア、ルクセンブルク、スウェーデンなどに関しては地形図を所蔵している。この点はこの地図室にある地図の特色の1つといえよう。地形図はその国・地域を知る上での最も基本的な地図であるが、図2からも分かるように、その大きさや縮尺、記載内容や方法、色彩など作成された国によって大

	地形図	ほか一般図	主題図
ヨーロッパ			
イギリス	○	○	○
フランス	○	○	
ドイツ	○	○	○
イタリア	○		
スペイン	○		
オランダ		○	○
ルクセンブルク	○		
スウェーデン など	○		
南北アメリカ			
アメリカ合衆国	○	○	○
カナダ		○	
メキシコ		○	
ポリビア など			○
オセアニア			
オーストラリア		○	○
ニュージーランド			○
アフリカ			
南アフリカ共和国 など			○
アジア			
韓国	○	○	
中国	○	○	○
台湾 など	○		



図2 ヨーロッパ各国の地形図

きく異なっていることが理解できよう。それら異なる地形図を見比べるだけでも面白いし、研究テーマにもなる<sup>3)</sup>。

**<復刻地図>**

地図室にある地図の別の特色として、復刻地図の存在が挙げられる。復刻地図とはその名の通りオリジナルの図を複写するなどして作り直され、刊行された地図である。オリジナルの地図の質感や色彩などは異なっている場合が多く、地図自体の資料価値は高くはない。しかし、オリジナルの地図は所蔵先が限られているなど容易には閲覧できない場合が多く、また、仮に閲覧できるとしても、貴重な地図資料であるがゆえに複写が認められないことも多い。それに対し復刻地図は複写も可能であることから、利用という観点においてこそ、復刻地図の価値が認められる。

これら地図室の復刻地図は冊子形態であり、特定の時代や地域の都市図や旧版の地形図を集めたものが

多い。古い時代の都市や地域を把握できることから、歴史学などの分野でも利用できる地図資料と考えられる。それら地図のほとんどは45cm×52cmほどの寸法であり、元々は分厚い表紙のついた、非常に重い冊子として販売されていた。そのため、複写を行うことは困難であったことから、現在では利用し易いように分冊にして再製本を行った上で保管している(図3)。



図3 再製本した複製地図

## <主題図>

通常、地図は描かれている内容から2つに大別することができます。地形図に代表されるような地形や集落、交通路など地表の事象を網羅的に表現した図を一般図という。それに対し、特定のテーマを強調して描いている図を主題図というが、そのような主題図も地図室には数多くある。例えば、東西ドイツ統合前の西ドイツの社会経済情勢に関する多くの事象を地図で表現した地図帳がある。この地図帳にまとめられた地図からは、冷戦下の西ドイツが社会経済政策に取り組むにあたり、重視して取り組んでいた点の一端が読み取れる。また、南アフリカ連合(現、南アフリカ共和国)の鉱物資源に関して記された冊子の付図(一枚図)があるが、この地図には鉱物資源の種類・産出場所の情報や、鉄道などの交通網が記載されており、両者の関係性が分かる(図4)。しかし、読み取れる事柄は地図そのものの記載内容からだけではない。地図には英語とともにオランダ語も併記されており、当地がオランダと繋がりのあった歴史を知ることができる。さらに、当然ながらこのような主題図は何らかの背景や目的をもって作成されたと考えられるが、1959年という発行時期から考えて、本図作成の背景に鉱物資源をめぐる国際的な競争が展開されていたことが伺える。

## <掛図>

上に挙げたほかに、当分野から図書館に移設することになる地図資料には、旧制第三高等学校時代や教養部



図4 南アフリカ連合の鉱物資源に関する主題図

時代に使用されていた掛図が多い点も特色として挙げられる。これら掛図に関しては地図室にて保管するかどうかは未定であり、人環・総人図書館内の他のスペースにて保管することになるかもしれないが、どちらにせよ近年は有効に活用されてこなかったこれらの地図資料も、いずれ皆さんに利用していただけることになろう。

## おわりに

以上、人環・総人図書館にできた地図室の概要や所蔵地図資料の紹介を通じて、地図を利用する観点からの地図の価値について記した。本稿のテーマの趣旨からすると、貴重な古地図などについて紹介した方が適していたのかもしれないが、ここでは地図室の宣伝も兼ねて記させていただいた。先述したように、地図室に保管している様々な地図のほとんどは貴重資料というわけではなく、それぞれの存在自体に高い価値があるのではない。ただ利用しやすいという点において、それら地図資料の、地図室の潜在的な価値があると考え。実際に多くの方に利用していただくことで、初めて本当の意味での価値に繋がる。そのためにも、多くの方に地図室の地図を利用していただければと切に願っている。

## 注

- 1) 本稿では、一枚図や折図、掛図、地図帳などすべての形態の地図資料の総称として「地図」という語を用いる。それゆえ、特定の形態の地図について言及する際は上記のように区別して使用する。
- 2) ただし、地図室には鍵がかかっているため、利用するには図書館に事前に申し込む必要がある。
- 3) 地形図の描かれ方を詳細に検討した研究はこれまでも多くの蓄積がある。その一例を示すと、『地図情報』26-2(2006年、財団法人地図情報センター編集・発行)では地図記号に焦点を当て、各国の地図の特徴を紹介している。興味のある方は参照されたい。

(大学院人間・環境学研究科 助教、文化・地域環境論講座)



## 環on映画会へのお誘い

「環on映画会」は、アカデミックなコミュニケーションのための“話せる図書館”環on(わおん)を会場とした映画鑑賞会です。「環on映画会」の開催のきっかけは、前年の「人間・環境学フォーラム」(2008年11月)のキャンパスツアーとして、図書館が開催した環onでの映画上映会でした。それは、人間・環境学研究科博士後期課程の学生2人による映画2本の解説ののち、映画を上映するというものでした。

2009年1月からは、ほぼ毎月夕方に行う「環on映画会」に定着しました。阪上雅昭教授(地球環境動態論)の呼びかけに賛同した教員が案内人(語り手)となって、映画に関連した自分の青春、人生観などを自由に語るという趣向です。専門分野の講義時とは異なる案内人の表情、人となりが身近に感じられ親近感が持てます。映画を見ながら、映画館とは違う不思議な一体感が共有できる時空間です。

上映後に研究室で開かれる懇親会では、和気あいあいとした雰囲気の中映画の余韻に浸ることができます。

ポスターは、総合人間学部学生が留学先のカナダで作成しています。まさに、教員、学生と図書館が作る映画会です。参加は無料、事前申込不要です。毎回、参加者は30人前後です。皆様のご参加をお待ちしています。



### 環on 映画会 (2009年~)

回次	上映日	映画	国	テーマ	案内人
第1回	1/19 (月)	下妻物語	日本	ロリータ・ロココ・ニホン	篠原資明(思想文化論)
第2回	2/20 (金)	南極物語	日本	南極観測 今、昔	石川尚人(自然環境動態論)
第3回	3/19 (木)	變臉(へんめん) この權に手をそえて	中国	男の子と女の子、どちらが欲しいですか?	山本行男(分子・生命環境論) 李長波(比較文明論)
第4回	4/23 (木)	8 1/2	イタリア	人生は祭りだ、あるいは喪失と肯定	菅原和孝 (文化・地域環境論)
第5回	5/22 (金)	砂の女	日本	Eternal Triangle -- 文学・映画・音楽	安部浩(思想文化論)
第6回	6/25 (木)	Jesus Christ Superstar	アメリカ	人生の苦悩をロックのリズムに乗せて	藤田糸子(外国語教育論) 勝又悦子(ユダヤ学・宗教学)
第7回	7/24 (金)	シバジ	韓国	子どもとは何なのか — 代理母が問いかけるもの	小山静子(人間社会論)
第8回	8/27 (木)	こんばんは	日本	夜の学校 — 教えるとは、希望を語ること。学ぶとは、誠実を胸に刻むこと	田中真介(行動科学)
第9回	10/20 (火)	The Bicyclist サイクリスト	イラン	彼はなぜ、こぎ続けるのか…? それは、人間はなぜ、生き続けるのかという問いと等しい。アメリカ映画『ひとりぼっちの青春』に対する、第三世界に生きる者からの応答。人間の生の原点。	岡真理(比較文明論)
第10回	11/06 (金)	Un Dimanche à La Campagne 田舎の日曜日	フランス	田舎で過ごす孤独で静かな生活、そこにそれぞれの人生を抱えた息子たちが訪れる。苦くも切ない日曜日。人生の黄昏を見つめる老年の残照を、フォーレの名曲が彩る。	内田賢徳 (歴史文化社会論)

# 私にとって環on映画会とは？

ナザロワ, エカテリナ

NAZAROVA Ekaterina

環on映画会と出会ったのは今年4月に京都大学の人間・環境学研究科(人環)に正式に入学する少し前のことでした。入学手続きのため、人環の事務を訪れた時に目にした、環on映画鑑賞会のポスターに惹かれて行くことにしました。私以外に留学生がいなかったのが最初は緊張していましたが、映画を紹介する先生の話の聞き取り、実際に映画を見たり、集まったメンバー同士で映画の感想を語り合ったりしている内に、すっかり雰囲気呑み込まれました。

正式に人環の学生になると、いつの間にか環on映画会に毎回足を運ぶようになりました。それは、昔から気になって、まだ見ていない名作の映画を見られるからだけではなく、映画を紹介して下さる人環の先生方の話を身近に聞いたり、質問できたりする場でもあり、専攻や学年がそれぞれ異なる学生たちが集まる所でコミュニケーションしていく中でいつの間にか様々な話題に触れることができたからです。自分の視野が広がるチャンスだと考えていました。

また、メンバーに外国人留学生の視線から見た日本に

対する疑問や不思議に思ったことをぶつけ、自分の国の文化や事情を話したりすることはとても楽しく感じています。そして留学生の私にとって、現在行っている研究の話やそれについて分野が違う学生さんの意見を聞くことができるのもなかなか貴重な体験です。

小さなローカルの学校から編入学したばかりの私は新しい環境になじめるかどうか、少し不安でしたが、環on映画会をもって学校の中でひとつの居場所を見つけました。学校生活になれてくると、興味のある留学生の友達も誘うようになり、留学生同士でも気軽に行けるようになりました。毎月、「今度はどここの国のどんな映画をやるかな」とその後のディスカッションを楽しみにしています。いつか母国語のロシア語での映画も紹介される日を期待しながら、これからも、環on映画会に参加するつもりです。映画に興味を持っている方、人環の先生方や自分と研究の分野などが異なる人と話す機会を望む方などに、毎月「話せる図書館」環onで行われるこのイベントをお勧めします。きっと話し合いたい話題、楽しい時間を見つかることができると思います。

(大学院人間・環境学研究科 博士後期課程1回生)

## 環on映画会ポスター制作秘話

宮下 芙美子

MIYASHITA Fumiko

制作秘話と仰々しく掲げても、なにかこれといって特別なことがあるわけではなく、おもしろいことが好きな総人の学生が毎月せっせとつくっています、としか言いようがないのが正直なところ。実は紹介される映画を観る前につくっていることや、2009年4月より海外留学中のため肝心の映画会本番にはもうずっと参加できていないことなどは、驚かれることがあります。

大学の内外で何かと忙しいまどきの大学生。せっかく第一線の専門家ひしめく大学に籍を置き、いくら興味があっても、限られた時間の中では自分の専門から飛距離が大きい分野はなかなか縁遠いものです。そんなジレンマを抱えた学生にぴったりなのが、映画を通してそれまでまったく知らなかった世界が開け、その道のスペシャリストに解説をしてもらえる環on映画会。“いまどきの大学生”のひとりとして、この素敵な機会をできるだけ多くの方に楽しんでいただきたいという思いが強くなります。参加できないことを歯がゆく感じながらも、ポスターを褒めていただいたり感想を聞かせていただいたり、盛り上がっている様子が伝わってくるとなんともうれしく、帰国後ふたたび参加するのを楽しみに、日本を遠く離れた地で制作に励んでいます。願わくは、わたしのお届けするポスターが、みなさんが新しい世界を覗き込むきっかけとなりますように。

(環on映画会スタッフ、総合人間学部3回生)

# 教員及び関係者寄贈図書

(2008年11月～2009年10月31日) ※敬称略・五十音順

寄贈者名	書誌	配置場所	請求記号
阿辻 哲次 [18冊]	「言葉」に関する参加体験型講習の指導者養成事業：平成19年度事例紹介資料 / 文化庁編。-- 文化庁, 2008.7.	1F 和書	810.7  K  6
	漢字の相談室 / 阿辻哲次著(文春文庫; 702)。-- 文藝春秋社, 2009.6.	1F 教員図書	821.2  K  50
飯田 美樹(卒業生)	caféから時代は創られる / 飯田美樹著。-- いなほ書房, 2008.	1F 教員図書	702.3  C  4
稲垣 直樹	エルナニ / ユゴー作; 稲垣直樹訳(岩波文庫; 赤532-6)。-- 岩波書店, 2009.7.	1F 教員図書	952  E  1
大川 勇	「群衆と権力」の射程: エリアス・カネッティ再読 / 穴戸節太郎編(日本独文学会研究叢書; 59)。-- 日本独文学会,	1F 和書	940.2  G  27
岡 真理 [4冊]	アラブ、祈りとしての文学 / 岡真理 [著]。-- みすず書房, 2008.	1F 教員図書	929.7  A  2
	ガザ通信 = The message from Gaza / サイド・アブデルワーヘド著; 岡真理, TUP訳。-- 青土社, 2009.	1F 教員図書	319.8  G  17
岡田 敬司	人間形成にとって共同体とは何か: 自律を育む他律の条件 / 岡田敬司著。-- ミネルヴァ書房, 2009.2.	1F 教員図書	371  N  5
小田 伸午	DVD超実戦編: “二軸感覚”で「個」をレベルアップさせる。-- カンゼン, 2008。-- (サッカープレー革命; 2)。	1F 教員図書	783.4  S  8  2
勝又 直也	Seder Avodah for the Day of Atonement by Shelomoh Suleiman Al-Sinjari / Naoya Katsumata。-- Mohr Siebeck, 2009。-- (Texts and studies in medieval and early modern Judaism; 24)。	1F 教員図書	199  K  3
加藤 幹郎	アニメーションの映画学 / 加藤幹郎編。-- 臨川書店, 2009。-- (ビジュアル文化シリーズ)。	1F 教員図書	778.7  A  8
金坂 清則	地球と環境。-- 京都大学大学院人間・環境学研究科「地域と環境」研究会, 2009.3., 8-9(山田誠先生御退任記念特集号)	B2 書庫	P  C
	Discovering Japan: a new regional geography / [金坂清則 [ほか] 著]; [帝国書院編集部編集]。-- : pbk。-- Teikoku-Shoin, 2009.	1F 教員図書	291  D  1
河崎 靖	ドイツ方言学; ことばの日常に迫る / 河崎靖著。-- 現代書館, 2008.11.	1F 教員図書	848  D  1
木村 崇	授業づくりハンドブック: ロシア語 / ロシア語教育研究会編著。-- 大阪大学出版会, 2008。-- (大阪大学新世紀レクチャー)。	1F 教員図書	880.7  J  1
小山 静子	戦後教育のジェンダー秩序 / 小山静子著。-- 勁草書房, 2009.	1F 教員図書	372.1  S  25
佐藤 義之	感じる道徳: 感情の現象学的倫理学 / 佐藤義之著。-- 見洋書房, 2009.	1F 教員図書	150  K  4
佐伯 啓思	大転換: 脱成長社会へ / 佐伯啓思著。-- NTT出版, 2009.	1F 教員図書	304  D  6
	現代社会論のキーワード: 冷戦後世界を読み解く / 佐伯啓思, 柴山桂太編。-- ナカニシヤ出版, 2009.6.	1F 教員図書	304  G  25
篠原 資明	ほう賽句集 / 篠原資明著。-- 七月堂, 2008.12.	1F 教員図書	911.3  H  21
島崎 健	歴史文化社会論講座紀要 / 京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座 [編]. 2	B2 書庫	P  R
	歴史文化社会論講座紀要 / 京都大学大学院人間・環境学研究科歴史文化社会論講座 [編]. 3	B2 書庫	P  R
須田 千里	青樓半化通。	1F カウンター	913.5  S  16
高橋 由典	社会学者、聖書を読む / 高橋由典著。-- 教文館, 2009.3.	1F 教員図書	193  S  27
田中 茂樹 [107冊]	所有の歴史: 本義にも転義にも / ジャック・アタリ [著]; 山内昶訳。-- 法政大学出版局, 1994。-- (叢書・ユニバーシタス; 440)。	B2 書庫	331.2  S  35
	ローカルな法秩序: 法と交錯する共同性 / 阿部昌樹著。-- 勁草書房, 2002.1.	1F 和書	321.3  R  3

寄贈者名	書誌	配置場所	請求記号
田部 勢津久	科学立国日本を築く：極限に挑む気鋭の研究者たち / 丸文研究交流財団選考委員会編。-- 日刊工業新聞社, 2006.	1F 教員図書	549  K  2
田邊 玲子	ドイツ近現代ジェンダー史入門 / 姫岡とし子, 川越修編。-- 青木書店, 2009.	1F 教員図書	367.2  D  32
田村 類	基礎環境化学：環境を化学反応から捉えるためのエッセンス / 津江広人, 田村類共著。-- サイエンス社, 2009。-- (新・物質科学ライブラリ; 10)。	1F 教員図書	450.1  K  9
東郷 雄二	文科系必修研究生生活 / 東郷雄二著。-- 新版。-- 筑摩書房, 2009。-- (ちくま学芸文庫; [ト-11-1])。	1F 教員図書	002.7  B  4
富田 恭彦	科学哲学者 柏木達彦の多忙な夏：科学がわかる哲学入門 / 富田恭彦。-- 角川学芸出版, 2009.6.	1F 教員図書	104  K  36
西山 教行	Le paradoxe de la francophilie japonaise. Représentations des enseignants et des étudiants de français au Japon / Mariko Himeta; sous la direction de Geneviève Zarate。-- [n.l.], 2006.	2F 洋書	807  H  26
西脇 常記(名誉教授)	中国古典社会における仏教の諸相 / 西脇常記著。-- 和泉書館, 2009.10.	1F 教員図書	182.2  C  9
(卒業生)[31冊]	俳句評釋 / 河東碧梧桐著。-- [正]: 上, 続: 下。-- 新聲社, 1899.	B2 書庫	911.3  H  22
	新傾向句の研究 / 河東碧梧桐著。-- 初山書店, 1915.	B2 書庫	911.3  S  17
廣野 由美子	ミステリーの間人学：英国古典探偵小説を読む / 廣野由美子著(岩波新書; 新赤版)。-- 岩波書店, 2009.5.	1F 教員図書	930.2  M  21
松浦 茂	国際シンポジウム「間宮林蔵が見た世界」：資料集 / 中村和之編。-- 函館, 2009.8.	B2 書庫	229.2  K  4
	アジア史学論集 / 京都大学大学院人間・環境学研究所 松浦茂研究室 [編]。-- 2008.2. 2	B2 書庫	P  A
松田 清	石川自治と教育：リーダーのオピニオン誌 / 石川県自治と教育研究会。-- 金沢, 2008.11.	1F 教員図書	379.1  I  1
水野 尚之 [3冊]	ある青年の覚え書・道半ば：ヘンリー・ジェイムズ自伝第2巻、第3巻 / 市川美香子, 水野尚之, 舟阪洋子訳。-- 大阪教育図書, 2009.2.	1F 教員図書	930.2  H  16
	英文学評論 / 京都大学教養部英語教室 [編]。79	B2 書庫	P  E
三原 弟平	ベンヤミンと精神分析：ボードレールからラカンへ / 三原弟平著。-- 水声社, 2009.5.	1F 教員図書	940.2  B  12
三宅 正樹 [326冊]	品川弥二郎関係文書 / 尚友倶楽部品川弥二郎関係文書編纂委員会編。-- 山川出版社, 1993.9.	1F 和書	210.6  S  28  4
	品川弥二郎関係文書 / 尚友倶楽部品川弥二郎関係文書編纂委員会編。-- 山川出版社, 1993.9.	1F 和書	210.6  S  28  5
山田 孝子	ラダック：西チベットにおける病いと治療の民族誌 / 山田孝子著。-- 京都大学学術出版会, 2009.3.	1F 教員図書	389.2  R  4
山梨 正明 [5冊]	言語理論の展開と応用：西川盛雄教授退官記念論文・随想集 / 西川盛雄教授退官記念論文・随想集刊行会編。-- 英宝社, 2009.	1F 和書	804  G  22
	現代の東西文化交流の行方：国際化と世界化の光と影 / 吉村耕治編。-- 大阪教育図書.	1F 和書	361.5  G  15
山本 淳子(卒業生)	源氏物語千年紀記念：源氏物語国際フォーラム集成 / 源氏物語千年紀記念委員会編集・発行。-- 源氏物語千年紀記念委員会発行, 2009.	1F 和書	913.3  G  57
家森 幸男 (名誉教授)[7冊]	「長寿食」世界探検記 / 家森幸男著。-- 筑摩書房, 2007。-- (ちくま文庫; [や34-1])。	1F 教員図書	498.5  C  4
	食でつくる長寿力 / 家森幸男著。-- 日本経済新聞出版社, 2008。-- (日経プレミアムシリーズ; 019)。	1F 教員図書	498.5  S  22
渡邊 實 (名誉教授)[4冊]	Příběh prince Gendžiho / Murasaki Šikibu : [přeložil Karel Fiala]. -- soubor - 4. -- Paseka, 2002., 1	1F 和書	913.36  M  3  1
	Příběh prince Gendžiho / Murasaki Šikibu : [přeložil Karel Fiala]. -- soubor - 4. -- Paseka, 2002., 2	1F 和書	913.36  M  3  2

※ 3冊以上ご寄贈の場合、2冊まで掲載させて頂いておりますのでご了承ください。

## 教員及び関係者図書コーナー(1F)

本研究科教員・関係者の著書を配架しています。  
(KULINEの配置場所：1F 教員図書)

上梓されましたときはご惠贈くださいますようお願いいたします。



## 京都大学樟葉文庫 —上海師範大学への図書寄贈—

2009年3月、人間・環境学研究科から上海師範大学へ図書約3,000冊を寄贈しました。このたびの寄贈図書は「京都大学樟葉文庫」(しょうようぶんこ)と名づけられました。

京都大学のシンボルの木は「樟(楠)」で知られていますが、京都大学の学歌の歌詞には「樟の葉」という言葉があります。また、教養部以来の教員の同窓組織の名称は「樟葉会」でした(現在は「樟友会」)。

京都大学総合人間学部、大学院人間・環境学研究科の前身は京都大学教養部です。さらにその前身は第三高等学校であり、寄贈した書物の中には三高時代のものも多く含まれます。

寄贈先の人文与伝播学院、孫遜学院院长から堀智孝研究科長に礼状が届きました。京都大学の金坂清則教授と上海師範大学の鍾獅副教授の連携により、日中文化交流を深めることができました。

同様に、大連外国語学院へ、本研究科の李長波講師を通じて図書約8,000冊を寄贈しました。



上海師範大学の「京都大学樟葉文庫」  
金坂清則教授撮影・2009年8月30日

## 遡及入力事業

人環・総人図書館の左手階段を上った2階や、メディアセンター・サテライトのOSLに目録カードBOXが並んでいるのをご存知ですか。

京大の前身である第三高等学校時代からの図書館の蔵書は、かつて、目録カードに記されて書名や著者名から検索する仕組みでした。現在では、データベースに入力されていますので、KULINEですぐに検索できますが、検索できるのは全蔵書のまだ7割に過ぎません。KULINEでヒットしなくてもカードを繰ると見つかる可能性がありますので特に古い図書の場合は目録カードにあたってみてください。図書館ではそれら未入力の図書を過去に遡ってデータベースに登録する「遡及入力」を進めています。昨日までなかった本が今日ならヒットするかもしれません。

また図書館では、それぞれの研究室に分散している図書を順次図書館に集めサービスの一元化を進めています。どうぞご期待ください。



南棟1 書庫  
(旧分類：旧教養部図書分類表)

平成19(2007)年度	-----	約30,950冊
平成20(2008)年度	-----	22,788冊
平成21(2009)年度	(2009.4~9月末現在) -----	42,412冊*

(\*雑誌の遡及入力推進により増加)

遡及入力した図書は、人環・総人図書館の地下にある「書庫」のほか、吉田南総合館の地下にある「南棟1書庫」等に配架しています。ご利用の際は、KULINEを検索し、「配架場所」を確認のうえ、カウンターまでお越しください。



南棟2 書庫  
(新分類：日本十進分類表)

## Q 視聴覚資料を使うには？

京都大学所属の方は、視聴覚室前の書架から、自由に視聴覚資料を選び視聴できます。2009年10月、視聴覚室の機器類をデジタルディスプレイに更新しました。個人用ブースも8席から13席に増えました(視聴覚室2)。

- ・ 利用時間：月～金曜日 9:00～19:30、土曜日 10:00～14:30
  - ・ 2～4人のグループの方は、視聴覚室1をご利用ください。
- ※5人以上は、環onのグループ学習室(申し込み制)をご利用ください。



視聴覚室2

# 平成21年度 特別図書 (購入予定)

※配架場所はKULINE表示場所

資料名・編著者等	内 容
キネマ週報. 第1期. 9巻 - 24巻. 総目次・解説. ゆまに書房.	「キネマ週報」全361号(1930-1939年)は、日本映画史研究のみならず戦前期のジャーナリズム研究のための一級資料。当館所蔵を補うことで全24巻が揃う。
日本語教育史資料叢書. 復刻版. 冬至書房. 全25巻.	明治から戦前にいたる日本語教育の基本的文献。外国語教育政策論、日本語教授法、外国語教育学、言語政策の研究にも有用。
R. C. Lefingwell Papers, 1917-1920. Library of Congress Manuscript Division. [Microfilm 17.704-37N-37P] 全37リール.	ラッセル・コーネル・レフイングウェル(アメリカの第一次世界大戦参戦時およびパリ講和会議参加時の財務次官)の公務書簡。当時のアメリカの対外債権研究で重要。
フランス植民地の歴史(コレクション). 全37点.	18世紀以降のフランス植民地主義に関する近年の研究コレクション。フランス語教育史、フランス近現代史、ヨーロッパ史のための基本的文献。
精選近代文芸雑誌集のうち「星座」「古東多万」「苦楽」, 「青年界」「随筆」. 全425シート. 雄松堂. (マイクロ)	日本近代文学関係の雑誌集。佐藤春夫・泉鏡花・永井荷風・谷崎潤一郎・徳田秋声・芥川龍之介らの作品収録。
Annotated leading cases of international criminal tribunals / ed. By Andre Klip et al. Vol.2-17.	国際刑事裁判主要判例注釈。1990年代からの国際刑事裁判所の主要判例に注釈を付け、反対意見も付記。国際法および冷戦後の国際関係論研究資料。当館所蔵を補い17巻まで揃う。
Christian Wolf, Gesammelte Werke / herausgegeben und bearbeitet von J. École. I, Bd.1-21.6.	カントに多大の影響を与えた哲学者のクリスチャン・ヴォルフの全集のうち第1部,第1巻～第21.6巻。京大の哲学研究に多大の貢献を期待できる。
日系移民資料集. 第III期. 日米年鑑. 全12巻. 日本図書センター.	日米年鑑(1905-1918)を復刻。初期北米移民の実態を知る貴重資料。
Index to Naturalizations of the US District Court for the District of Hawaii, 1900-1976, 23リール.(マイクロ)	アメリカ移民研究コレクション。ハワイ地方裁判所移民帰化関係裁判資料。

## 情報収集ワンポイント!

### Q.博士論文を探すには?

学位が授与された場所(京都大学、国内、海外)などによって使うデータベース等が異なります。主要なものには次があります。

#### 1. 京都大学博士学位論文データベース [京都大学]

「京都大学電子リソース」→「学位論文」  
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/dbj/type/h.html>  
 本学の博士論文を論題、著者名などから検索可。全文はKURENAIで。

#### 2. 博士論文書誌データベース [国立国会図書館・国立情報学研究所]

「GeNii」→「学術研究データベース・リポジトリ」  
<http://dbr.nii.ac.jp/>  
 日本国内の博士課程のある大学等の殆どの博士論文を収録。

#### 3. ProQuest Dissertations & Theses (PQDT) [ProQuest]

「京都大学電子リソース」→「学位論文」  
<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/dbj/type/h.html>  
 北米を中心に世界の1,000以上の大学の学位論文を収録。一部全文有。

#### 4. EThOS (Electronic Theses Online System) [British Library]

<http://ethos.bl.uk/>  
 British Library所蔵の英国の博士論文の検索。全文有(一部有料)。

※機関リポジトリ等によりオープンアクセスの論文が増えています。  
 他の国の場合も、博士論文入手の際は図書館のレファレンスでお尋ねください。



### Q.マイクロ資料を使うには?

マイクロ・スキャナシステムを導入しました。このシステムにより、マイクロ資料を鮮明に見たり印刷したりすることができます(印刷有料)。

利用時間: 月～金曜日 9:00～16:45  
 所蔵状況: 当館所蔵450タイトル以上をKULINE(京都大学蔵書検索システム)で確認可。  
 キーワードを入れ、「資料形態」を「マイクロ資料」に限定して検索。



# KULINEとMyKULINE

## KULINE(クライン)とは?

京都大学の図書館／室に所蔵されている資料(図書・雑誌)が検索できるデータベースです。図書館が提供する様々なオンラインサービスにリンクしています。



<https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/>



<https://mo.kulib.kyoto-u.ac.jp/mobileopac/>

図書館を使いこなすには、まずKULINEの使い方をマスターしましょう!

**KULINE (クライン=Kyoto University Libraries Information Network system)**

ここでは、図書のキーワード検索と詳細検索、そして雑誌検索に関する方法とコツをご紹介します。

## キーワード検索

### 検索のコツ 単語と単語をスペースで区切って入力

「キーワード」は図書の書名、著者名、件名\*の全ての項目を検索します(雑誌は雑誌名のみ)。探している資料の書名や著者名を全て入力する必要はありません。いくつかの特徴的な単語を抜き出して、スペースで区切って入力しましょう。ストップワード\*は、検索の際には無視されるので、省いても結果は変わりません。

- \*件名: 資料の主題をあらわす語
- \*ストップワード: 日本語の“て、に、を、は”、西洋言語の“the, and, le, über”など

<例>岡田温司著『イタリア現代思想への招待』という本が、どの図書館／室にあるか探してみましょう

### 1 キーワード検索

- ①資料種別の**図書**にチェック
- ②**キーワード**欄に「イタリア 思想」と入力する
- ③「**京大内を検索**」ボタンを押す

### 2 書誌検索結果一覧 画面

- ④**書誌検索結果一覧**が表示される
- ⑤検索キーワードに該当した20件の中から、探している図書を選択してクリック

こんなときには…

- 希望する資料が検索結果に表示されない、ヒットしない…単語の組み合わせをいろいろ変えてみる、漢字ではなくヨミ(ひらがなorカタカナ)でも検索してみる
- 検索結果の件数が多い…**詳細検索**で再検索する

### 検索のコツ 並べ替えて表示させる

検索結果を「タイトル」「著者名」「出版年」でそれぞれ並べ替えることができます。希望する条件の「▲昇順」もしくは「▼降順」を選択してください。

## 3 書誌詳細画面



- ⑥ 書誌詳細画面が開くので、探している図書かどうか、詳細から確認する
- ⑦ どの図書館/室にあるのか、所蔵館、配置場所、請求記号をメモする
- ⑧ 状態を確認する

- 状態の種類(例)
- 「空欄」…利用できる
  - 「貸出中」…他の利用者が借りている、予約が可能
  - 「研究室貸出中」…所蔵館窓口へ問い合わせる
  - 「整理中」…所蔵館窓口へ問い合わせる

**RefWorksとは?**

ウェブ上で使える文献管理ツールです。KULINEやMyKULINE、電子ジャーナルのデータを取り込むことで、先行研究や必読文献の論文リストを作成したり、書いている論文中に参考文献リストを作成したりすることができます。初めてお使いになる際は、ユーザ登録が必要です。

**ユーザ登録・利用ガイド** <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/erhelp/citation.html#refworks>

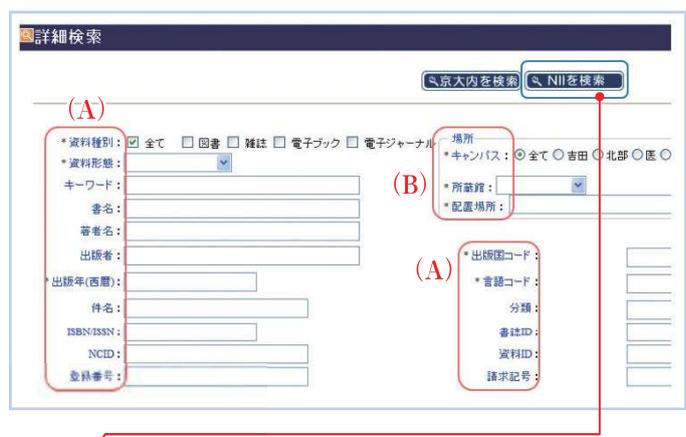
**RefWorks** <http://www.refworks.com/refworks>

## 詳細検索

### 検索のコツ 検索記号で効率アップ

探している資料に関する詳しい情報を持っている場合には、詳細検索で調べましょう。検索項目を限定すれば、効率よく検索できます(A)。所蔵場所を指定することもできます(B)。

検索記号(\*,#)を使えば、さらに検索の幅を広げることができます。



### 検索のコツ NIIを検索

京都大学内に所蔵がない場合、「NIIを検索」ボタンを押してみましょう。他大学・機関の所蔵状況がわかり、訪問利用や文献取り寄せの判断ができます。なお、学外からの文献取り寄せは有料となります。

**「\* (アスタリスク)」で前方一致**

**前方一致**  
語尾変化する単語や複数形の検索に便利な検索方法。語尾に「\*」をつける。

- 「japan\*」と入力すれば、「japan」と「japanese」どちらも検索できる
- 西洋言語などの検索で使うと、効率が高くなる場合がある

**「# (シャープ)」で完全一致**

**完全一致**  
検索キーワードと完全に一致する結果を得られる検索方法。頭に「#」をつける。

- 「#科学」と入力すれば、完全に一致する結果だけ得られる
- 一般的過ぎるタイトルを効率よく検索できる

## 雑誌検索のしかた

### 検索のコツ 雑誌名で検索しよう

KULINEでは、必ずその論文が掲載されている雑誌名(またはISSN)のみを入れて検索しましょう。  
雑誌論文の著者名・論文名は検索キーワードになりません。

<例> 次の雑誌論文を探してみましょう。岡田温司著「ルネサンス美術にみる妻と夫」、『人環フォーラム』20号,p.14-17,2005.1

### 1 詳細検索 画面



- ① 資料種別の雑誌にチェック
- ② 書名欄に「人環フォーラム」と入力する
- ③ 「京大内を検索」ボタンを押す

- ④ 書誌詳細画面が開くので、探している雑誌がどうか、詳細から確認する
- ⑤ 探している号を所蔵している館があるか、所蔵館を調べる

### 2 書誌詳細 画面



#### 巻号表示の見方(例)

- 「1-12, 14-54」→1号から12号と14号から54号は所蔵しているが、13号は所蔵していない
- 「2( )-5( )」→2巻から5巻を所蔵しているが、欠号(所蔵なし)もある
- 「1-771+」→771号以降も継続して所蔵している

### 京大ArticleLinker とは?

文献データベース等の検索結果から、お探しの雑誌記事本文のフルテキスト(PDF/HTML)へとナビゲーションを行う論文リンクツールです。電子ジャーナルサイトの論文へのリンクなどが表示されるので、読みたい論文本文を入手したり、雑誌の所蔵を調べたりといったことが簡単に行えます。

京大ArticleLinkerの使い方 <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/erhelp/al.html>

## 電子ジャーナル、データベースの利用について

京都大学が契約している電子ジャーナル、データベースへは、学内のPCからアクセスしてください。  
なお、出版社によっては学外からのアクセス(リモートアクセス)を認めているところもあります。  
リモートアクセスの設定については学術情報メディアセンターの案内をご参照ください。

電子ジャーナル、データベースのリモートアクセスによる利用について <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/er-remote.html>

## MyKULINE(マイクライン)とは？

MyKULINE <https://my.kulib.kyoto-u.ac.jp/mylibrary/myliblogin.html>

京都大学の構成員である皆さんひとりひとりのためにつくられた、Web上の図書館です。

以下のようなサービスを提供しています。

- ・京都大学蔵書検索KULINEも同じ画面から検索可能
- ・貸出状況の確認、貸出更新、貸出予約
- ・相互貸借や文献複写の申込み、進捗状況の確認、依頼のキャンセル
- ・図書館からのメッセージや新着資料のお知らせなどの取得
- ・リンク集やメモの保存 …など

KULINEのメニューから、ECS-ID(a0\*\*\*\*\*)およびパスワードを入力してログインしてください。

図書館機構トップページ <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>からもログインできます。

- ECS-IDを持っていない方は、学術情報メディアセンターへ
- ECS-IDを持っているがログインできない方は、図書館窓口へ

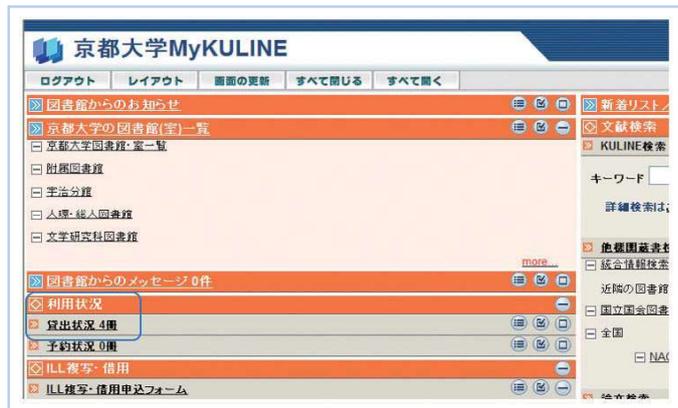


ここでは、オンラインサービスメニューの「貸出更新」と「貸出予約」の利用方法についてご紹介します。

## 貸出更新

「貸出状況」で、現在、どこで(貸出館)、何を(書誌事項)、いつまで(返却期限日)借りているかが確認できます。

貸出更新は、貸出状況の詳細画面から手続きできます。



1. 利用状況の中の貸出状況をクリックし、学内の図書館/室で借りている資料について確認する
2. 更新したい資料名をクリックし、「この資料を貸出更新する」を押す
3. ポップアップに出る「OK」を押せば、貸出更新完了  
(ただし、更新できる回数は一回まで)

罰則期間中、延滞している資料がある場合、または予約が入っている場合は更新を受付できません。

付属資料(CD,地図)など種類によっては更新できない場合もありますので、窓口にてお尋ねください。

## 貸出予約

KULINEで検索し、貸出中だった資料を予約したいときは、右端に表示される「予約する」ボタンから予約できます。



1. 「予約する」ボタンを押し、MyKULINEにログインする
2. 依頼条件を選択し、予約依頼情報を入力して「決定」を押す
3. 内容を確認して「申し込み」をクリックし、依頼完了通知の「閉じる」を押せば完了

所蔵館によってはオンラインによる貸出更新・貸出予約を受付けていません。詳しくはこちらをご確認ください。

オンライン予約・貸出更新受付館一覧 [http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/service/index.php?content\\_id=20](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/service/index.php?content_id=20)

# 人環・総人図書館の一年間

	行事等	情報リテラシー支援	BOOK SELECTION	
2009年 1月	・第1回環on映画会[1/19] ・利用者アンケート(図書館機構) [2008/12/17~2009/1/31] ①			
2月	・研究室図書を受入(第4次) ・第2回環on映画会[2/20] ② ・窓枠改修工事による休館および 書庫整備[2/23~3/23]		「図書館にはたくさん本があるけれど、何をを読んだらいいのかわからない」というご意見により実現!時節に応じて、テーマ別に、図書の展示をしています。 配置場所表示:「1F 選書」	
3月	・第6回図書委員会[3/6] ・第7回図書委員会[3/18] ・吉田南図書館(仮)の覚書締結 [3/19] ・第3回環on映画会[3/19] ・上海師範大学および大連外国語学院へ図書寄贈 ・2階閲覧室に書架設置(洋図書等を移動)			
4月	・第1回図書委員会[4/8] ・第4回環on映画会[4/23]	①利用者アンケート		
4月	・第1回図書委員会[4/8] ・第4回環on映画会[4/23]	②環on映画会	・"Library Guide 2009"発行 [4/1] ・全学共通教育ガイダンス[4/2~4] ⑥ ・Library Guide Tour [4/13~17] (38人)	・キャンパスライフ、スタート! [4~6月] ⑧
5月	・第2回図書委員会[5/7] ・第5回環on映画会[5/22]		・パソコンで本を探そう! KULINEの 使い方[5/18~22](7人)	
6月	・第6回環on映画会[6/25] ・"British Newspapers 1600-1900" トライアル[6/1~7/31]* ③		・パソコンで論文を手に入れよう! その1:電子ジャーナルの使い方 [6/19~25](15人)	
7月	・第3回図書委員会[7/8] ・第7回環on映画会[7/24]			・旅に出る/自分探しの旅 [7~9月] ⑨
8月	・オープンキャンパス[8/6](300人) ・南棟第4書庫等の整備(吉田南 総合館地下1階) [8/1~9/30] ・第8回環on映画会[8/27] ・図書館アプローチ改修工事 [8/4~9/30] ④		③British Newspapers	
9月		④図書館アプローチ改修	・パソコンで論文を手に入れよう! その2:(日本語論文編)CiNiiの使い 方[10/14~15](30人) ⑦	
10月	・視聴覚室の機器類更新および 席数増加、マイクロキャナシス テムの導入[10/1] ・第9回環on映画会[10/20]		・共通教育科目「学力・学校・社会」の 授業1コマ担当[11/12]	・知の探求 [10~3月] ⑩
11月	・第4回図書委員会[11/5] ・人間・環境学フォーラム(環on会 場)[11/6] ⑤ ・第10回環on映画会[11/6]			
12月	・「かりん:京都大学人環・総人図 書館報」の発行[12/1]	⑤人間・環境学フォーラム	・パソコンで論文を手に入れよう! その3:(英語論文編)<予定>	
2010年 1月~3月			・文献管理をしよう! <予定>	

## ●図書館アプローチの改修

人環・総人図書館前の玄関アプローチ改修工事期間中は、ご不便をおかけいたしました。1973年竣工以来の玄関周辺が、おかげさまで、明るく開放的で親しみやすい図書館に変身しました。図書館前をなごやかに集う場、憩いの空間としてもご利用ください。



## ●情報リテラシー支援(ガイダンス・講習会)

春、秋を中心に開催する講習会は多彩です。京都大学蔵書検索システムKULINEによる図書の探し方や、電子ジャーナルや論文データベースの使い方など少し高度なものまで好評です。当日の配布資料は当館Webサイトに掲載しています。( )内は参加者数。

\*"British Newspapers 1600-1900"は、近世近代イギリス新聞のアーカイブ。利用者からの要望により人環・総人図書館でトライアル。

# 京都大学図書館機構 図書館・室利用者アンケート調査報告 人環・総人図書館

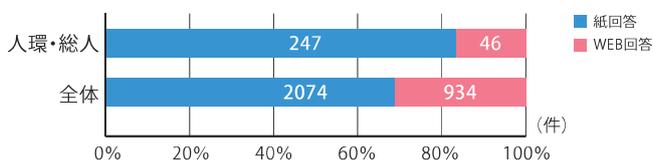
図書館機構では、利用者の皆様のご意見・ご要望を把握し、今後の図書館サービスの向上に活かしていくためアンケート調査を行いました(実施:2008年12月17日~2009年1月末)。回収数3,007件のうち人環・総人図書館を評価の対象館として選択していただいたご意見293件について、次にまとめました。

※アンケート目的、アンケート実施項目や他の図書館・室との比較も含めたアンケート調査報告全文は  
**京都大学学術情報リポジトリKURENAI**で読むことができます。どうぞ併せてご覧ください。  
URL: <http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/85260>



人環・総人：人環・総人図書館を評価対象館として選択した回答  
全体：本アンケート調査の全体の回答

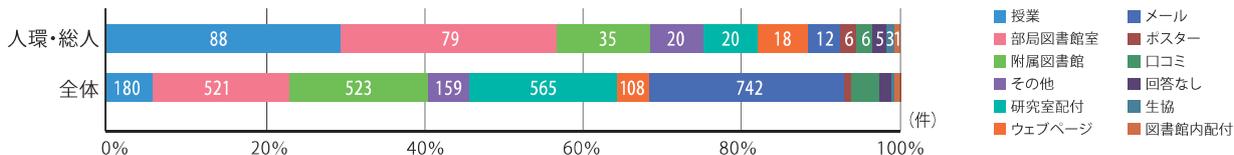
## 回答方法



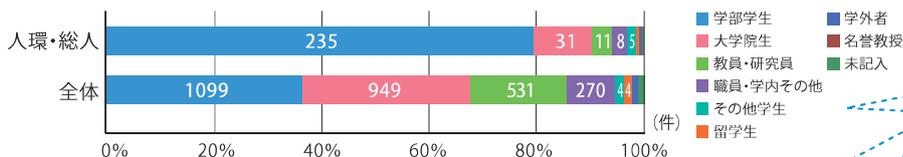
## 【概況】

授業や部局図書館室でのアンケート情報の入手率が高く、そのため80数%が用紙による回答であった。身分別割合をみても、「全体」に比べて学部生の回答が80%と多いことから、共通教育の語学の授業配布による回答が多いと推測できる。1・2回生の学部生の意見が強く反映されたアンケート結果だといえる。

## アンケート入手経路



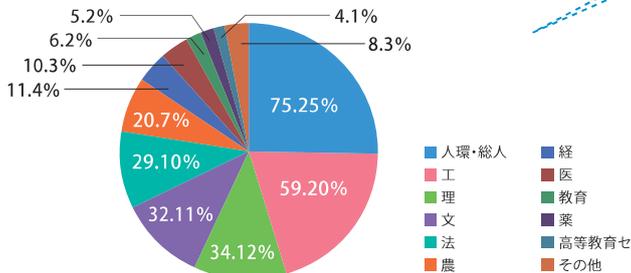
## 身分別内訳



### 【身分および所属】

**学部生の意見が80%。**  
人環・総人の学生だけでなく、全学の学部生の意見が寄せられている。

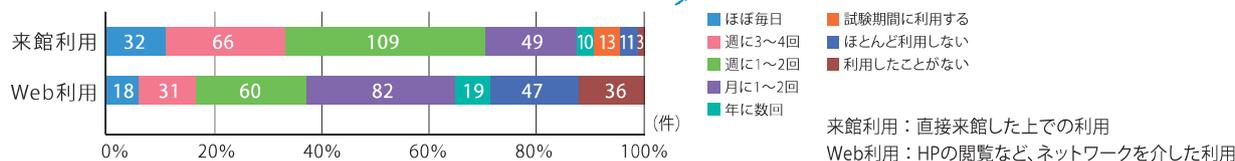
## 所属別内訳



### 【利用頻度】

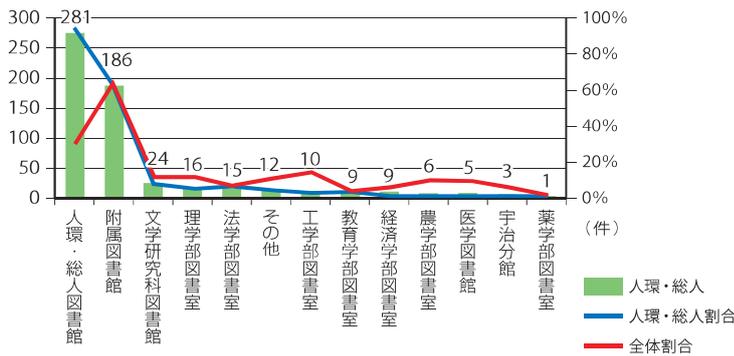
来館利用では週に1,2回以上利用する方が半数以上を占めているが、「Web利用はほとんど利用しない」または「利用したことがない」が4割を占めている。人環・総人図書館は来館型図書館として利用されている図書館だといえる。

## 利用頻度

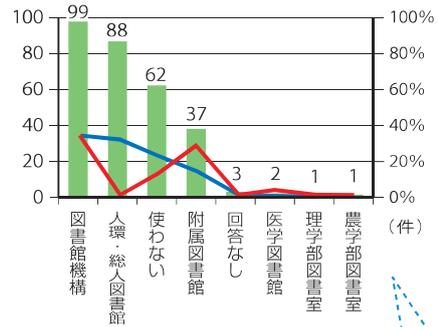


来館利用：直接来館した上での利用  
Web利用：HPの閲覧など、ネットワークを介した利用

## よく利用する図書館・室



## よく利用する図書館・室のWebページ



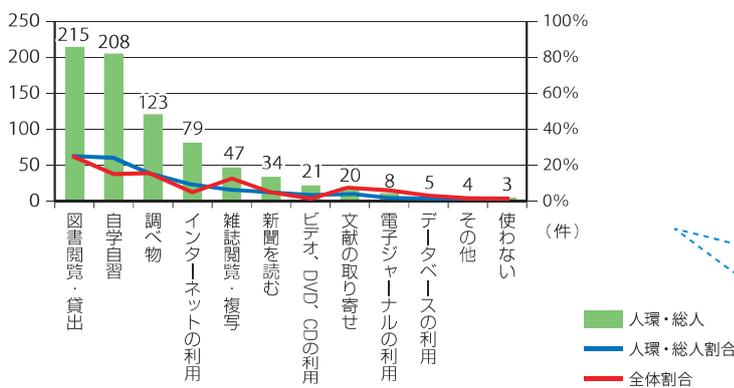
### 【よく利用する図書館・室】

「全体」では利用が少ないようにみえるが、人環・総人図書館の利用者の中では人環・総人図書館のWebページの利用率も高い。

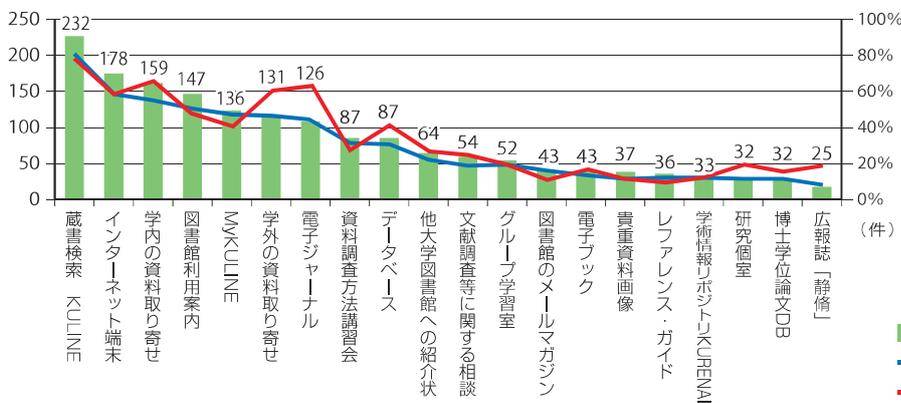
### 【利用目的】

「利用頻度」からも来館型の図書館であることが窺えたが、利用目的をみても、「全体」と比べて自学自習・インターネット利用など「場所としての図書館」が求められる率が高い。雑誌や複写を求めめる率が低いことは、回答者に学部生が多いことにもよるが、「知名度」、「期待度・満足度」(次ページのまとめ)、「論文取り寄せのサービス」等の認知度が低いことも関連がある。

## 図書館利用の目的



## サービスの知名度



### 【知名度】

「全体」に比べると、学内外からの資料取り寄せサービスや電子ジャーナルの知名度が低い。

## 学習研究における図書館・室、インターネット利用時間(一日あたり)



### 【利用時間(一日あたり)】

インターネットの利用時間が2時間未満の利用者が70%を超えている。他の結果からも電子ジャーナル等の利用が少ないことが窺われ、電子媒体の需要は決して多くはない利用者層のいる図書館といえる。

## 期待度・現状評価・満足度 ～ アンケート調査報告書【2.9 期待度・現状評価・満足度】より

人環 総人	評価:低		評価:中		評価:高	
	4.41未満		4.41以上、5.00未満		5.00以上	
期待:高 5.70以上	16: 開館時間が適切で利用しやすい		4: 机・椅子の数が十分で使いやすい 11: 図書が十分に揃っている 15: 開館日が適切で利用しやすい		2: 図書館・室内が清潔である 3: 図書館・室内は、快適で居心地が良い 8: 学習、研究に集中できる	
5.70未満	7: 必要な機能を備えたパソコンが十分にある		14: データベースが充実している 13: 辞書・事典類が十分に揃っている 27: クレームへの対応が迅速・適切である 20: 館内の案内や掲示がわかりやすい 12: 雑誌、電子ジャーナルが十分に揃っている 19: 資料がわかりやすく配置されている 17: 貸出冊数、貸出期間が適切である		1: 図書館・室が便利な場所にある 26: 窓口・館内での職員への対応が良い 9: 図書館・室内は安全である	
期待:中 5.00以上	5: グループで利用できる場所が整っている 6: 複写機が適切に使いやすく配置されている 10: 障害者の利用に配慮されている		25: 図書館・室がおこなう講習会が充実している 21: 図書館・室の配布物が容易に入手できる 22: 図書館・室の配布物の内容がわかりやすい 18: 図書・複写物を学内・外を問わず迅速に取寄せることができる 24: 図書館・室のホームページが充実している 23: 図書館・室のホームページが利用しやすい		<p>●赤字の項目は満足度が低い。 (0.8未満) ※満足度=評価÷期待度</p> <p>●それぞれのマスの中では、 上の方の満足度が高い。</p> <p>●青字の項目は認知度が低い。 ※「現状に対する評価」の N(わからない)の割合が40%以上</p>	
5.00未満						
期待:低						

No	項目	回答平均値			N(わからない)と回答した人の比率	
		期待する 度合い (a)	現状に対する 評価 (b)	満足度 (b) ÷ (a)	期待する 度合い	現状に対する 評価
1	図書館・室が便利な場所にある	5.638	5.626	0.998	5.1%	2.7%
2	図書館・室内が清潔である	5.789	5.453	0.942	3.1%	3.1%
3	図書館・室内は、快適で居心地が良い	6.011	5.442	0.905	4.4%	3.7%
4	机・椅子の数が十分で使いやすい	5.776	4.419	0.765	4.4%	5.1%
5	グループで利用できる場所が整っている	3.845	3.637	0.946	14.6%	24.1%
6	複写機が適切に使いやすく配置されている	4.421	3.966	0.897	17.7%	30.6%
7	必要な機能を備えたパソコンが十分にある	5.282	4.212	0.797	10.9%	16.7%
8	学習、研究に集中できる	5.964	5.152	0.864	5.4%	5.8%
9	図書館・室内は安全である	5.659	5.436	0.961	6.1%	9.5%
10	障害者の利用に配慮されている	4.805	4.244	0.883	21.4%	40.1%
11	図書が十分に揃っている	6.056	4.624	0.764	8.2%	10.5%
12	雑誌、電子ジャーナルが十分に揃っている	5.139	4.627	0.900	19.4%	34.4%
13	辞書・事典類が十分に揃っている	5.212	4.955	0.951	18.0%	32.0%
14	データベースが充実している	5.041	4.860	0.964	24.5%	39.5%
15	開館日が適切で利用しやすい	5.975	4.427	0.741	5.8%	6.8%
16	開館時間が適切で利用しやすい	5.996	4.392	0.732	5.8%	7.1%
17	貸出冊数、貸出期間が適切である	5.611	4.675	0.833	9.9%	14.3%
18	図書・複写物を学内・外を問わず迅速に取寄せることができる	4.923	4.685	0.952	34.0%	55.8%
19	資料がわかりやすく配置されている	5.423	4.814	0.888	13.9%	17.7%
20	館内の案内や掲示がわかりやすい	5.061	4.687	0.926	11.2%	15.3%
21	図書館・室の配布物が容易に入手できる	4.517	4.931	1.092	19.7%	31.3%
22	図書館・室の配布物の内容がわかりやすい	4.542	4.690	1.033	22.8%	36.4%
23	図書館・室のホームページが利用しやすい	4.946	4.676	0.945	18.0%	29.6%
24	図書館・室のホームページが充実している	4.830	4.578	0.948	20.1%	34.7%
25	図書館・室がおこなう講習会が充実している	4.201	4.613	1.098	30.6%	49.0%
26	窓口・館内での職員への対応が良い	5.522	5.331	0.965	8.8%	14.6%
27	クレームへの対応が迅速・適切である	5.064	4.809	0.950	31.0%	55.4%

### 【期待度・現状評価・満足度】

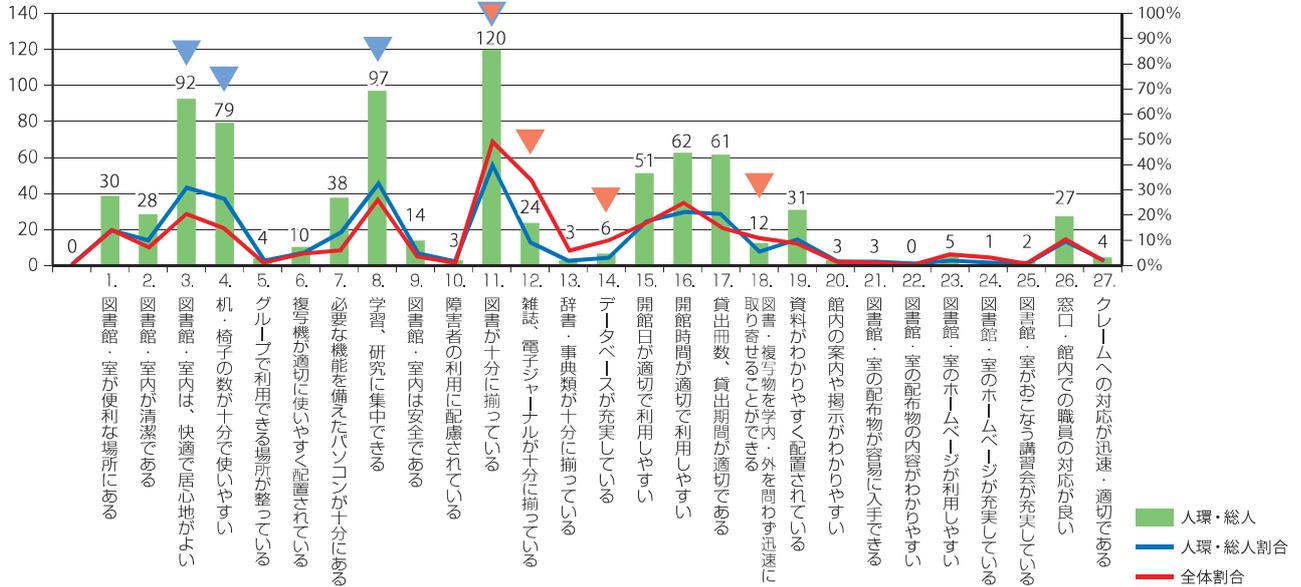
アンケート調査報告書全文中、他の図書館との比較によれば、「『全体』『附属図書館』に比較して、利用者の現状評価の高い項目数が多いが、図書館への期待度は、中以下に集まっている。その結果として、利用者の満足度が高くなっている。しかし、期待度が全館・館種において最も低いことは、全学共通教育の中心となる役割を担う図書館として、重く捉えなければならない。」と厳しいコメントが出ている。

また注目に値するのは、25:「講習会」に対する意見である。「全館・館種別中、人環・総人図書館において期待度・現状評価・満足度全てに最高値を示していること」から「初年次教育の一環として図書館利用教育の必要性を、利用者から求められていると分析でき」、「利用者へのわかりやすい広報と、利用者ニーズに合わせた利用教育の実践に力を注ぐ必要がある。」と人環・総人図書館の役割や課題も浮き彫りになっている。

個別に項目をみていくと、最も満足度が低い項目は、16:「開館時間」や15:「開館日」、11:「図書の充実」、4:「座席数」であり、期待も高いことからこれらは今後の重要課題である。また、18:「図書・複写物の取り寄せ」は、「わからない」が55.8%と半数を超えており、25:「講習会」とともに今後広報の工夫が必要である。

重視するサービス

【重視するサービス】重視するサービスでも、居心地のよさや十分な座席、集中できる環境など場所に対する項目が重視され▼、「全体」に比べると雑誌や電子ジャーナル、データベースに対する関心が低く、取り寄せサービスへの関心も低い▼。図書が十分に揃っていることが最も重視されている点は人環・総人図書館、全体ともに共通している▼。場所だけでなく、資料があってこそその図書館であるといえる。



自由記述

【自由記述】意見(84人分)の中から意見の多いものを中心に取り上げた。

\*括弧内の数字は件数

蔵書&アクセス

蔵書構築

新規の図書購入に時間がかかる(院生)／雑誌の購入も希望調査を(学部生)／雑誌の種類を増やしてほしい(学部生)／DVDの品ぞろえが悪いので学生の声をもっと反映してほしい(院生)／新書の棚にちくま文庫、ちくま学芸文庫、NHK Booksシリーズがあればなおよい(学部生)

利用規則

予約が入っていないければ延長回数を2回にしてもいいのでは(学部生)／延滞のときの罰則の猶予期間を付けてほしい(院生)／貸出冊数を増やしてほしい(学部生:3)／期間を長くしてほしい(学部生:3)新書は期間を短くしてほしい(学部生)

蔵書の利用

MyKULINEの機能の改善と充実を(教員:2、学部生)／貸出機でバーコードが読み取れないことが多い(特に新書や文庫)(学部生)

文献の取り寄せ

どこでも(キャンパス内でも)資料を取り寄せて最寄りの図書館で貸出返却を(教員)／自宅まで資料を配達するサービスを(教員)／PDFで手元に論文を(院生)

広報

2階や書庫の配置や案内がよくわからないので改善を(院生:2、学部生)

共感・信頼・保証・応答性

開館時間

開館時間の延長を(朝8時から・夜は10時・12時まで・教員は24時間・土曜や環onの閉館時間が早すぎる)(学部生:12、院生、教員)／日曜日でも開けてほしい(学部生:4)

利用者のマナー

飲食、おしゃべり、煙草の匂い、本への書き込み等、改善する対策を講じてほしい(学部生:6、院生)

その他・全般(職員対応含む)

防犯の重視(学部生)／満足している(学部生:8、教員:1)

有形性・場所

施設・設備

PCの増設を(学部生:2)／飲み物を飲みたい(学部生)／冷温器を置いてほしい(学部生)／コピー機の増設(書庫に・現金コピー機)を(学部生:4)／手元が暗いので電灯付机を(学部生)／一人用の机の増設を(学部生:2)／トイレの整備を(学部生)

学習に適した環境

書架と場が分かれた、集中できる閲覧室がある点が評価できる(学部生:2)／音がでないように床に絨毯を(院生)／冷暖房の適切な調整を(学部生:5、院生2)

【まとめ】

この結果は、回答者の80%を占める学部生の意見や要求水準を反映している。このため、実際の利用者層(「図書館総計」p33)と隔たりがあり、必ずしも人環・総人図書館の利用者の意見を反映しているとはいえない。

しかしながら、当館が、人間・環境学研究所および総合人間学部の図書館であると同時に、本学の共通教育支援の使命を帯びる図書館であることが顕著にわかる結果となった。いただいた要望はすでに取り組んでいるものもあるが、今後の改善課題としたい。

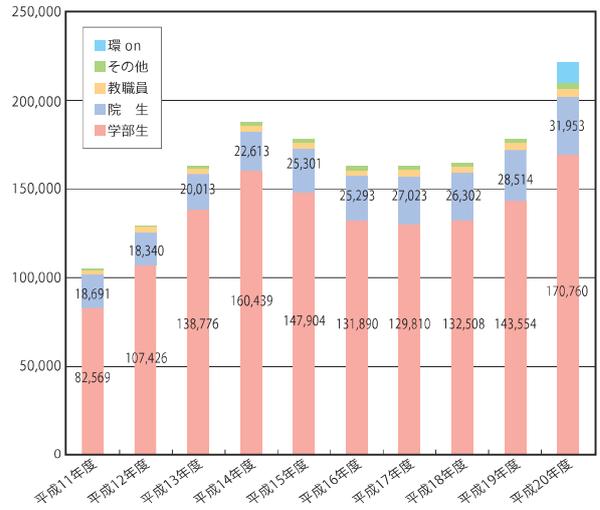
# 図書館統計

蔵書冊数 (平成21年3月末現在)	利用対象者数 (平成21年5月1日現在)	
587,699冊 (和書) 314,479冊 (洋書) 273,220冊	全学共通教育学生(1・2回生)	5,938人
	総合人間学部学生	587人
	人間環境学研究所学生	742人
	教職員	286人

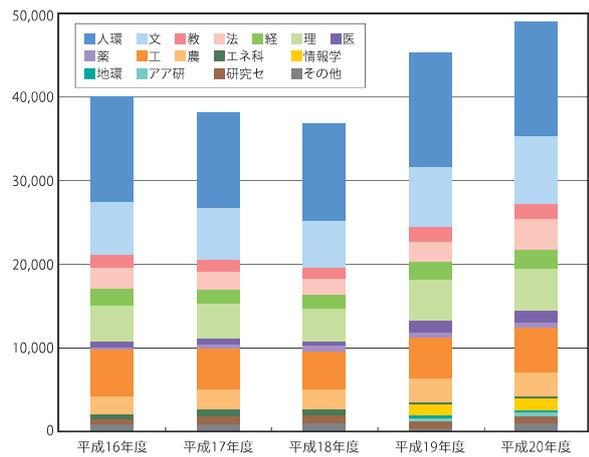
平成20(2008)年度 入館・貸出

	入館者数	貸出冊数
学部生	170,760人	45,739冊 (56.8%)
院 生	31,953人	27,183冊 (33.7%)
教職員	4,562人	6,380冊 (8%)
その他	3,671人	1,210冊 (1.5%)
計	210,946人	80,512冊* (100%)

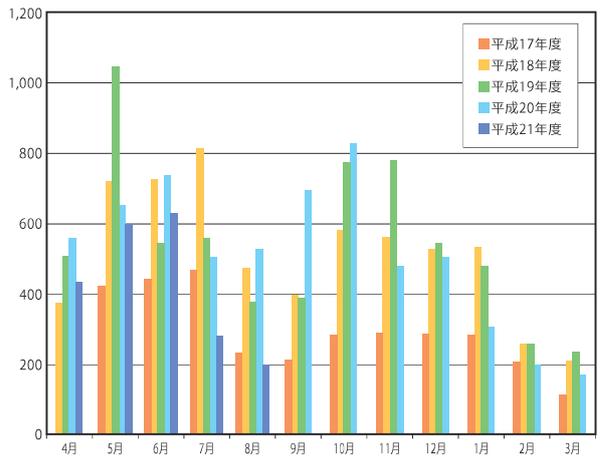
	貸出人数	貸出冊数 (合計*に対する割合)
学部生のうち全学共通教育学生(1・2回生)	16,019人	23,733冊 (29%)



入館者数の推移  
(平成11年度～平成20年度)

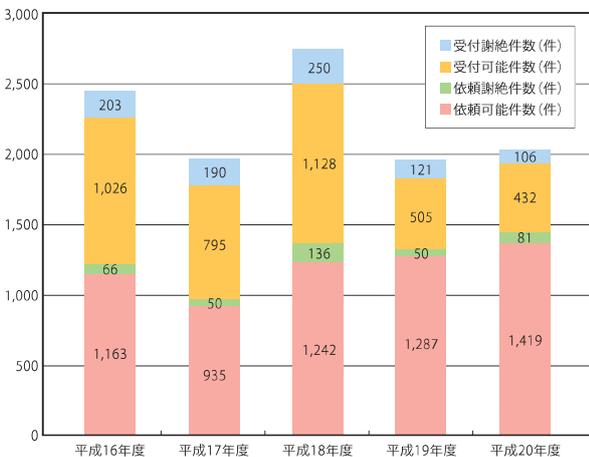


部局別貸出人数の推移  
(平成16年度～平成20年度)

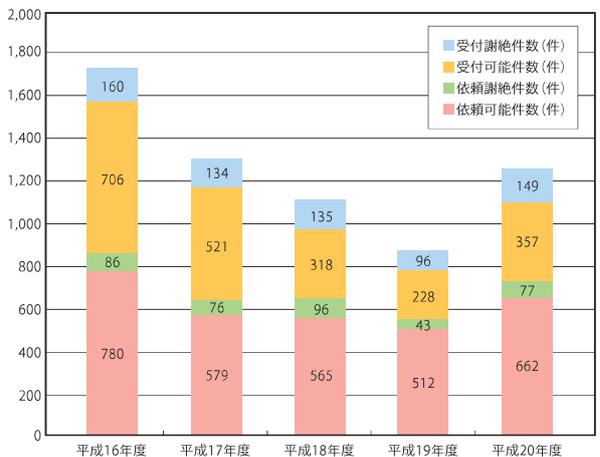


MAGAZINEPLUS検索回数  
(平成17年5月～平成21年8月)

\* 人環・総人図書館が契約している雑誌記事索引を中心とする日本語論文の書誌データベース



文献複写処理件数の推移  
(平成16年度～平成20年度)



現物貸借処理件数の推移  
(平成16年度～平成20年度)

# 貸出回数ランキング

期間：2008年10月01日～2009年09月30日

順位	貸出回数	簡略書誌情報
1	419	地球の歩き方 / 「地球の歩き方」編集室著作編集. -- A01 ヨーロッパ '08-'09 - E11 リビア '08-'09. -- 改訂. -- ダイヤモンド・ビッグ社, 2007.
2	296	地球の歩き方 / 「地球の歩き方」編集室著作編集. -- A01 ヨーロッパ '07-'08 - E06 イラン・ペルシアの旅 '07-'08. -- 改訂. -- ダイヤモンド・ビッグ社, 2006.
3	147	地球の歩き方 / 地球の歩き方編集室著作編集. -- A01 ヨーロッパ '09-'10 - E07 モロッコ '09-'10. -- 改訂. -- ダイヤモンド・ビッグ社, 2008.
4	109	地球の歩き方 / 「地球の歩き方」編集室編集. -- A01 ヨーロッパ '06-'07 - E10 南アフリカ ジンバブエ レント スワジランド ナミビア ボツワナ ザンビア '06-'07. -- 改訂. -- ダイヤモンド・ビッグ社.
5	97	TOEICテスト新・最強トリプル模試 : New Version対応の模試を3回分収録 / 中村紳一郎 [ほか] 著. -- [1], 2, 3 : 解答・解説編. -- ジャパンタイムズ, 2006.
6	71	TOEICテスト新公式問題集 / Educational Testing Service 著 ; 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC 運営委員会編. -- [Vol. 1], Vol. 2, Vol. 3. -- 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会, 2005.
7	54	アトキンス物理化学 / P.W.Atkins 著 ; 千原秀昭, 中村巨男訳. -- 上, 下. -- 第6版. -- 東京化学同人, 2001.
8	53	上撰の旅. -- 1. 札幌・道東・道北 - 33. 沖縄. -- 昭文社, 1999-2001.
9	40	解析入門 / 杉浦光夫著. -- 1, 2. -- 東京大学出版会, 1980. -- (基礎数学 ; 2-3).
10	36	高慢と偏見 / ジェーン・オースティン作 ; 富田彬訳. -- 上巻, 下巻. -- 改版. -- 岩波書店, 1994.7. -- (岩波文庫 ; 赤(32)-222-1~2).
10	36	地球の歩き方 / 「地球の歩き方」編集室編集. -- A01 ヨーロッパ '05-'06 - E06 イラン ペルシアの旅 '05-'06. -- 改訂. -- ダイヤモンド・ビッグ社.
10	36	詳解微積分演習 / 福田安蔵 [ほか] 共編 ; 鈴木七緒編集者代表. -- 1, 2. -- 共立出版, 1960. -- (大学課程数学演習シリーズ ; 2, 3).
11	32	多様体の基礎 / 松本幸夫著. -- 東京大学出版会, 1988.9. -- (基礎数学 ; 5).
12	31	罪と罰 / ドストエフスキー作 ; 江川卓訳. -- 上, 中, 下. -- 岩波書店, 1999. -- (岩波文庫 ; 赤(32)-613-5-7).
12	31	海辺のカフカ / 村上春樹 [著]. -- 上, 下. -- 新潮社, 2002.9.
13	30	深夜特急 / 沢木耕太郎著. -- 1 香港・マカオ - 6 南ヨーロッパ・ロンドン. -- 新潮社, 1994.3-1994.6. -- (新潮文庫 ; さ, 7, 5-10).
14	29	羊をめぐる冒険 / 村上春樹 [著]. -- 上, 下. -- 講談社, 1985.10. -- (講談社文庫).
14	29	微分方程式の基礎 / 笠原皓司著. -- 朝倉書店, 1982. -- (数理科学ライブラリー ; 5).
14	29	英語ヒアリング集中レッスン : 今日からはじめる3週間完成 / 深沢俊昭 [ほか] 共著. -- 基礎編, 実践編. -- アルク, 1999.1.
15	28	ダンス・ダンス・ダンス / 村上春樹著. -- 上, 下. -- 講談社, 1991.12. -- (講談社文庫).

## ●人環・総人図書館のメール・ニュース[Jinkan-Soujin LibNews]のお申込み

【登録方法】メール本文にsubscribe heslibmlとだけ書いてmajordomo@kulib.kyoto-u.ac.jp宛送信してください。  
件名(subject)や署名(signature)などは不要.heslibmlへの参加お礼のメールが送られてきたら登録完了です。

## ●人環・総人図書館物語



# 京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館 (人環・総人図書館)

Library of the Graduate School of Human and Environmental Studies and  
the Faculty of Integrated Human Studies ( Jinkan-Soujin Library ) , Kyoto University



## 人間・環境学研究科総合人間学部図書館

開館時間 月-金 / 9:00-20:00  
土 / 10:00-15:00



## 環on (人間・環境学研究科棟 1階)

開室時間 月-金 / 9:00-17:00



南棟1 書庫

南棟1 南棟2

## 吉田南総合館 地階

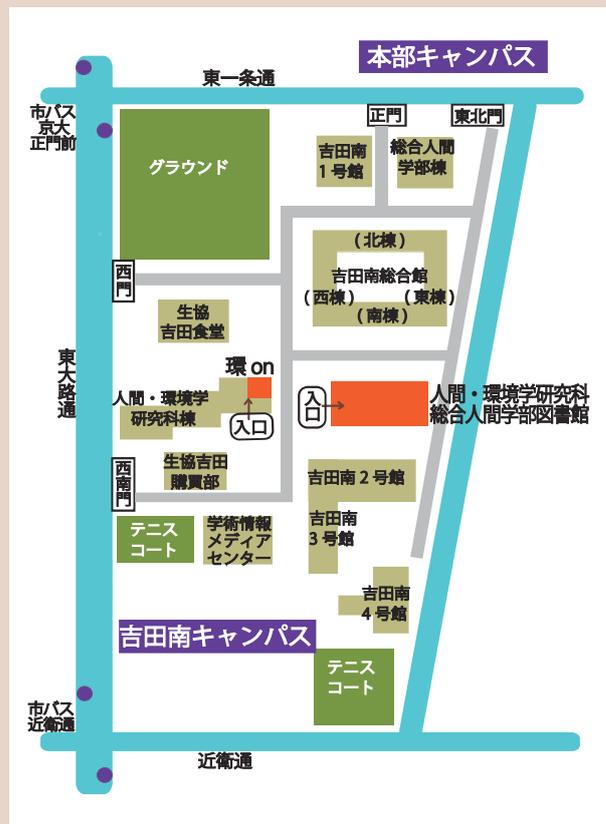
南棟1 書庫 12,18号室  
南棟2 書庫 24号室  
南棟4 書庫 21号室  
南棟3 書庫 26-2号室

利用時間 月-金 / 9:00-18:45  
入庫手続き要

出納制・事前申込み要



<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/>



発行 2009年12月1日 (年1回)

編集・発行 京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
TEL: 075-753-6524, 6525  
FAX: 075-753-6896  
E-mail: eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

かりん : 京都大学人間・環境学研究科  
総合人間学部図書館報 第2号